令和７年度

会　　誌

第 60 号

広島県高等学校教育研究会
英語部会

英語部会会誌 60 号

目　次

巻頭言

会誌第 60 号の発刊にあたって　　広島県立安西高等学校　神笠　薫子　・・・・・3

寄稿

1「個別最適な学びの実現を目指して」

広島大学外国語教育研究センター　山内　優佳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

2「協働的で対話的な学び ～ディベート指導を通して～」実践報告

広島県立尾道東高等学校　講師　Patrick Murphy・・・・・・・・8

事業報告

1　広島県高等学校英作文コンテストの休止について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

2　第 62 回広島県高等学校教育研究会英語部会定期総会・研究大会・・・・・・・・・・・・・12

3　第 22 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト ・・・・・・・・・・・31

第 18 回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼第 18 回全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

4　第 17 回広島県高校生英語ディベート大会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

5　「英語教育及び研修に関するアンケート」結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

資料

1　各地区における研究授業の実施について（令和 7 年度英語部会共催公開授業研究会）　・・63

2　第 22 回広島県高校生英語スピーチコンテスト　最優秀賞・優秀賞作品・・・・・・・・・・64

3　令和 7 年度広島県教育研究会英語部会概要（本部役員並びに事務局）　・・・・・・・・・・66

4　広島県高等学校教育研究会英語部会会則 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67

会誌第 60 号の発刊にあたって

広島県高等学校教育研究会英語部会　会長
広島県立安西高等学校 校長 神笠　薫子

広島県高等学校教育研究会英語部会会員の皆様におかれましては、平素より本部会の研究活動に対し、多大なる御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございます。また、本年度も多くの方々のご尽力により、会誌第 60 号を発刊できる運びとなりましたこと、心より御礼申し上げます。

本年度は、呉宮原高校の事務局長を中心に、呉地区各校の事務局員の皆様とともに新たな運営形態で英語部会事務局の業務を進めてまいりました。学校単位で進行しないという挑戦的な形式での取組となりましたが、事務局員及び理事の先生方のご協力、さらには呉地区各学校の校長先生方、英語科教員の皆様のご支援により、運営が可能となりました。また、オンラインでの会議運営やコンテスト形式の見直しなど、働き方改革を推進しつつ成果を上げることができました。この場をお借りし、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

本部会は、広島県教育委員会の指導のもと、学習指導要領に則り、自主的かつ創造的な教育活動を推進し、高等学校、特別支援学校及び高等専門学校における教育関係者の資質向上と学校教育の振興に貢献することを目的としております。今年度は、以下の 3 つの目標を掲げ、研究活動を進めてまいりました。

ア 学びの変革の趣旨（主体的・対話的で深い学び）を踏まえた授業展開や教材開発を行っている
イ 学びの変革（主体的・対話的で深い学び）と関わりのある内容について研究・研修を行っている
ウ 高校生育成事業に応募する学校・生徒の数を増加させる

7 月に広島大学の山内優佳准教授を講師にお招きし、「個別最適な学びの実現を目指して」と題して研修会を開催しました。この研修会では、学習者一人ひとりに応じた指導方法や最新の教育環境について講演していただき、教育現場に生かせる多くの示唆を得ることができました。

今年度はレシテーションコンテスト予選における音声審査のより効率的な活用や、1・2 学年と 3 学年の部の統合による業務のスリム化を図りました。また、AI 技術の進展を踏まえ、長年続けてまいりました「英作文コンテスト」を本年度は休止、令和 8 年度より正式に中止することを決定しました。これらの取組は、変化する時代に柔軟に対応し、生徒の英語学習への新たな環境づくりを目指す重要な施策となりました。

本会誌には、今年度の研究活動成果や各行事の記録を収録しております。会員の皆様の日々の実践や研究にぜひお役立ていただければ幸いです。

寄稿１

令和７年７月 28 日（月）
於：サテライトキャンパスひろしま
山内優佳　yukay@hiroshima-u.ac.jp

第 62 回広島県高等学校教育研究会英語部会定期総会・研究大会
ワークショップ「個別最適な学びの実現を目指して」

１．はじめに

２．キーワード

(1) 「令和の日本型学校教育」

- 2020 年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし，その姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す，**個別最適**な学びと，**協働的**な学び」とした。（中教審，2021，pp. 1-2）

(2) 個別最適な学び（cf. 個に応じた指導）

- 全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ，思考力・判断力・表現力等や，自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには，教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや，子供一人一人の特性や学習進度，学習到達度等に応じ，指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「**指導の個別化**」が必要である（中教審, 2021, p. 17）。
- 基礎的・基本的な知識・技能等や，言語能力，情報活用能力，問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として，幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ，探究において課題の設定，情報の収集，整理・分析，まとめ・表現を行う等，教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで，子供自身が学習が最適となるよう調整する「**学習の個性化**」も必要である（中教審, 2021, p. 17）。
- 以上の「指導の個別化」と「学習の個性化」を教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」であり，この「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念が「個別最適な学び」である。

(3) 自由進度学習

- 教育の個別化・個性化の分類のひとつ（黒上, 1987）
- どのような個人差に応じるのか
  - 量的個人差：ある特徴の程度によって順番に並べること
  - 質的個人差：種類やタイプの区別

- どのように個人差に応じるのか
  - 意思決定の主体が教師
  - 意思決定の主体が学習者
- 【量的個人差】×【意思決定の主体が学習者】→ 自由進度学習
  - 自己学習力、各自の能力の最大限の伸長を目標年、系列化された学習内容を期限付きの自由進度にて取り組む学習

(4) 個別最適な学びを目指した実践例

- 奈良女子大学附属小学校「奈良の学習法」
  - 1920 年頃～
  - 独自学習 → 相互学習 → 独自学習
  - 参考：2021 年答申 p. 19 *授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし，更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど，「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要*

- 愛知県東浦町立緒川小学校
  - 1980 年頃～
  - 単元内自由進度学習
    - ◆ 複数教科を同時進行
    - ◆ 単元内に複数の「学習コース」を設定
    - ◆ 目標達成のための課題と学習の流れ（単元計画のようなもの）
    - ◆ 学習材：学習の手引き、計画表、学習カード等を使用
    - ◆ 学習環境：好きな場所で取り組む

3．「個別最適な学び」のために活用したい枠組み、観点

(1) 「個に応じた指導（個別最適な学び・協働的な学び）」のための 10 の学習プログラム

領域	教科等			プログラム名（学習名）	学習活動の展開
指導の個別化	国語、算数・数学			1. 補充指導（マスタリー学習）	一斉→診断→補充
				2. 学力別指導（アビリティ・グループ学習）	診断→上／中／下位グループ
		社会、理科		3. 反転授業（フリップ・オーバー学習）	アサインメント＋一斉
			生活科、総合的学習、道徳、特別活動	4. 一人学習（マイペース学習）	一斉＋個別学習
				5. 二人学習（ペア共同学習）	一斉＋個別学習
				6. 小グループ学習（グループ協働学習）	一斉＋個別学習
学習の個性化				7 発展課題学習（エンリッチ学習）	一斉＋一斉（発展学習）
				8. 課題選択学習（トピック学習）	一斉→トピック A／B／C
				9. 自由課題学習（テーマ学習）	個別＋一斉
				10. 自由研究学習（インディペンデント学習）	個別

※加藤（2022）をもとに山内が作成　※詳細は加藤（2016）

(2) 「個」をどう捉えるか

- 外国語学習の分野で研究される「個人差」（Dörnyei & Ryan, 2015）
  (i) Personality, (ii) Language Aptitude, (iii) Motivation, (iv) Learning Styles and Cognitive Styles, (v) Learning Strategies and Self-Regulation, (vi) Other {Creativity, Anxiety, Willingness to Communicate, Self Esteem, Learner Beliefs}
  - 授業の中で操作可能なもの、生徒を変えることができるものは？
- カテゴリ分け、クラスタ分析
  - 研究対象としては、

(3) 「個」がどう学ぶか

- 自律的な学習者（cf. 自立した学習者）
  - 学習者による目標設定、モニタリング、評価（メタ認知サイクル）
- 動機づけ／エンゲージメント
  - やる気があるだけではどうにもならない
  - やる気を行動に移すために、（いくらかは）教員の働きかけも必要
    - 適切なレベルの課題設定
    - 実生活との関連
    - 好奇心
    - 評価（個の成長、改善点のコメント）



(4) 環境整備（cf. 環境構成）

- 保育所保育指針「環境構成」
  - 物的環境、人的環境、自然環境、社会環境
- 教室の物理的環境、ICT などの整備
- 人的資源の配置
- 教員による教材の準備

4．グループワーク

(1) 普段の授業で、どのような「一斉授業」「ペア・グループ活動」「個別学習」を行っていますか。自身の実践を共有しましょう。
(2) 生徒自身が学習の「目標」「内容」「進度」「方法」を決定（選択）する機会を導入しやすそうな学習活動を検討しましょう。（どのような時期？　どの単元？　どのようなカ？）

(3) 協働的な学習活動を行う際に、どのような環境整備が必要ですか。

【学習活動の例】修学旅行の行き先を決めよう！

○教室環境　　○グループ内の役割

○使用が期待される言語材料　　○成果物

○教材（ハンドアウト、掲示等）

(4) 上記(3)の活動後、どのような個別学習を取り入れることで学びが深まるでしょうか。

5．まとめ

(1) 自分が行う英語授業において、どのような活動や場面に「個別最適な学び」を取り入れたいと考えますか。「協働的な学び」との兼ね合いも考慮に入れましょう。

(2) 個別最適な学び、協働的な学びを実現するためにどのような環境整備が必要ですか。
環境整備…行政等の力が必要なこと、自分で準備できること、を含みます。

参考資料

加藤幸次（2016）『アクティブ・ラーニングの考え方・進め方』

加藤幸次（2022a）「『個別最適な学び』のための『新しい』授業を創る」『授業づくりネットワーク』40, 22–27.

黒上春夫（1987）「教育の個別化・個性化―類型とその特徴」『教育方法学研究』12 巻, 49–56.

中央教育審議会（2021）『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学び～（答申）』 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm

奈須正裕・伏木久始（編著）（2023）『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して』北大路書房

野中陽一・豊田充崇（2023）『個別最適をつくる教室環境　多様な学びを創り出す「空間」リノベーション』明治図書出版

廣森友人・和田玲（2024）『エンゲージメントを促す英語授業―やる気と行動をつなぐ新しい動機づけ概念―』大修館書店

亘理陽一（2022）「『個別最適な学び』の何が問題か」『学校教育研究』37, 70–83.

寄稿２

広島県立尾道東高等学校　講師　Patrick Murphy

DEBATE TIPS



- Advanced Speech (persuasive structure)
  - Present Situation: Status quo / Before the plan (AFF = Bad, NEG = Good)
  - Effect: Process / After the plan / Immediate effects (AFF = Good, NEG = Bad)
  - Importance: Long-term future impact (AFF = Good, NEG = Bad)
- Simple Speech Using PREP
  - Point:　I agree / disagree with the resolution
  - Reason:　because …
  - Example: For example, …
  - Point: Therefore, I agree / disagree.
- Questions
  - You said ~, right?
  - Please say ~ more simply.
  - Why can you say ~?
  - What do you mean?



- How to make a rebuttal (attack)
  - You said [相手が言ったこと], but [反論する時の表現] because [その理由].
    - You said _____ but I don't agree (同意できない) with you because ...
    - You said _____ but that's wrong (間違っている) because ...
    - You said _____ but I think _____ because ...
    - You said _____ but _____ because ...
- Basic Attack Expressions

ENGLISH	JAPANESE
that's not true	真実ではない／当てはまらない
that's not always true	いつも当てはまるわけではない
that's not necessarily true	必ずしも真実ではない／必ず当てはまるわけではない
that's not relevant	関係のない／適切ではない
that's not significant	重要ではない
that's easy to solve	解決しやすい

Collaborative and Interactive Learning Through Debate

by Patrick Murphy
Onomichi Higashi H.S.

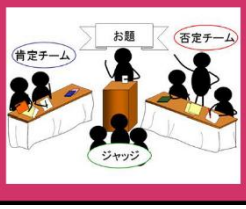


Table of Contents

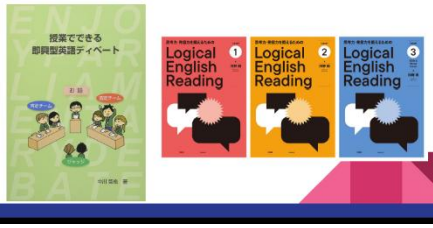
- Introduction
- About Debate
- Mini-Debate
- Q&A



About Debate



Class Debate - Useful Textbooks



What is Debate?

A discussion about an issue using opposing arguments (相対する論), which ends in a vote.



What Skills Do We Get By Learning Debate?

- Comprehensive Skills (理解力)
  - Reading (読解)
  - Listening (リスニング)
- Analytical Skills (分析力)
  - Logical thinking (論理的思考)
  - Information literacy (情報リテラシー)
- Constructive Skills (構成力)
  - Writing (作文)
- Communication Skills (伝達力)
  - Speaking (会話)
- Judging (意志決定力)
- Teamwork (チームワーク)

Types of Debate

1) Policy Debate (事前準備型)
   - Evidence (証拠), Preparation (weeks or months!)
2) Parliamentary Debate (即興型)
   - Rhetorical (修辞的), Impromptu (即興の)

Skills to practice before debating...

- Quick Thinking
- Quick Response
- Summarizing
- Critical Thinking（批判的思考）
  - Rebuttal (反論)

Critical Thinking: Make a rebuttal!



[Example] Topic: Pets

Dogs are better pets than cats because dogs like to play. Cats only sleep all day and don't move.

REBUTTAL - You said cats only sleep and don't move, but I don't agree with you because my cat likes to play. For example, when I throw his toy mouse, he runs and brings it back to me.

Critical Thinking: Make a rebuttal!



[How to make a rebuttal]

You said [相手が言ったこと], but [反論する時の表現] because [その理由].

1. You said _____ but I *don't agree* (同意できない) with you because ...
2. You said _____ but that's *wrong* (間違っている) because ...
3. You said _____ but I think _____ because ...
4. You said _____ but _____ because ...

*You said _____の下線の部分は，相手が述べたことを簡潔に要約して述べる。

More Basic Rebuttal Expressions



ENGLISH	JAPANESE
that's not true	真実ではない／当てはまらない
that's not always true	いつも当てはまるわけではない
that's not necessarily true	必ずしも真実ではない／必ず当てはまるわけではない
that's not relevant	関係のない／適切ではない
that's not significant	重要ではない
that's easy to solve	解決しやすい

Critical Thinking - Make a rebuttal!



Statements

Cats are better pets than dogs because…

1. **dogs are very *dirty* (汚い).**
2. **cats are cuter than dogs.**
3. **Doraemon is a cat.**
4. **cat food is 100 yen cheaper than dog food.**

One more skill…

- Constructive Speech (立論)
  - Present Situation (現状【変更前】)
  - Effect (効果・発生過程【変更後】)
  - Importance (インパクト・重要性)

Constructive Speech Content

	AFF	NEG
Present Situation (Before)	BAD	Good
Effect (After)	Good	BAD
Importance	Good	BAD

Mini-Debate



Mini-Debate Topic

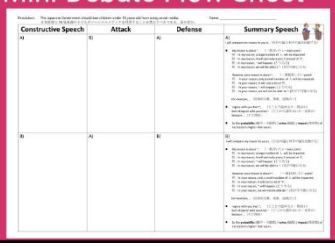
(HEnDA 2025 National Debate Topic)

The Japanese Government should ban children under 16 years old from using social media.

日本政府は16歳未満の子どもがソーシャルメディアを利用することを禁止すべきである。

是か非か。

Mini-Debate Flow Sheet



事業報告１

■広島県高等学校英作文コンテストの休止について

令和７年６月 11 日

各 学 校 長 様

広島県高等学校教育研究会英語部会会長

広島県高等学校英作文コンテストの休止について

皆様にはますます御清栄のことと存じます。日頃より、本部会の活動に御理解・御協力をいただき、心から感謝申しあげます。

さて、令和６年６月５日付文書で全国英語教育研究団体連合会主催全国高等学校生徒英作文コンテストを令和７年度から中止するとの連絡がありました。

このことを受け、広島県高等学校教育研究会英語部会といたしまして、広島県高等学校英作文コンテストの在り方を検討し、先日の理事会において、令和７年度は広島県高等学校英作文コンテストを休止することで決議しました。

来年度以降の同コンテストの在り方につきましては、検討を継続してまいります。

引き続き、本部会の活動への御理解と御協力のほどをよろしくお願いいたします。

※英作文コンテストの実施については、全英連ではすでに中止を決めており、生成ＡＩの普及により公平性を保つことが難しい現状に鑑みて、８月 29 日の第２回理事会において中止を決定した。

事業報告２

■第 62 回広島県高等学校教育研究会英語部会定期総会・研究大会

令和７年６月 20 日

広島県高等学校教育研究会
英語部会会員　様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部 会 長　　神　笠　薫　子
（広島県立安西高等学校校長）

第 62 回広島県高等学校教育研究会英語部会定期総会・研究大会について（依頼）

標記の会を次の要領により開催いたします。校務など調整の上、御出席下さいますようお願い申し上げます。

参加につきましては、７月 18 日（金）までに、以下のリンクより Google Forms にてお申込みください。

１　主　催　　広島県高等学校教育研究会英語部会

２　期　日　　令和７年７月 28 日（月）

３　会　場　　サテライトキャンパスひろしま
〒 730-0051 広島県広島市中区大手町一丁目５番３号
TEL 082-258-3131　　FAX 082-258-3010

４　日　程

13:00 - 13:30	受　付
13:30 - 13:50	定期総会
13:50 - 15:20	ワークショップ 演題「個別最適な学び（仮題）」 講師　山内　優佳　准教授（広島大学外国語教育研究センター）
15:20 - 15:30	休憩
15:30 - 16:10	実践報告 題目「協働的で対話的な学び～ディベート指導を通して～」事例報告 報告者　マーフィーパトリック 講師（広島県立尾道東高等学校）
16:10 - 16:20	閉会行事

５　申　込　　以下のリンクにてお申込みください。
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfBQnG1dNeq0kWdp0_iVBqC1sUCa7SvGwXYDgs37HCD6HE6Hg/viewform?usp=header

（問い合わせ先・申込先）
広島県立呉宮原高等学校英語部会事務局
〒737-1204　広島県呉市音戸町北隠渡一丁目１番１号
広島県立音戸高等学校　内
担当　宮内　花菜
E ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：k-miyauchirm59931@hiroshima-c.ed.jp
TEL 0823- 51-2235　　FAX 0823- 51-2237

定期総会・研究大会資料

第62回
広島県高等学校教育研究会英語部会

定期総会
研究大会
要項

期　日　　令和7年7月28日（月）

会　場　　サテライトキャンパスひろしま
〒730-0051 広島県広島市中区大手町1丁目5番3号

主　催
広島県高等学校教育研究会英語部会

第62回広島県高等学校教育研究会英語部会
定期総会・研究大会要項

1　開催関係団体

主催　広島県高等学校教育研究会英語部会

2　期日　　令和7年7月28日（月）

3　会場　　サテライトキャンパスひろしま
〒 730-0051 広島県広島市中区大手町１丁目５番３号

4　日程
13:00 - 13:30 受 付
13:30 - 13:50 定期総会
13:50 - 15:20 ワークショップ
演　題　「個別最適な学びの実現を目指して」
講　師　広島大学外国語教育研究センター
山内　優佳　准教授
15:20 - 15:30 休憩
15:30 - 16:10 実践報告
題　目　「協働的で対話的な学び～ディベート指導を通して～」事例報告
報告者　広島県立尾道東高等学校
マーフィー パトリック　講師
16:10 - 16:20 閉会行事（アンケートForm）

第 62 回広島県高等学校教育研究会英語部会
定期総会

1　開会行事
(1)　開会のことば
(2)　会長挨拶　広島県立安西高等学校　校長　神笠　薫子
(3)　役員紹介
(4)　日程説明

2　定期総会
議長選出
議事
報告１　　令和６年度事業報告
報告２　　令和６年度会計決算並びに監査報告
第１号議案　令和７年度本部役員並びに事務局に係る件
第２号議案　令和７年度事業計画に係る件
第３号議案　平成７年度予算に係る件
その他

3　閉会行事
(1)　副部会長挨拶　広島県立熊野高等学校　校長　矢野　由美子
(2)　閉会のことば



報告１　令和６年度事業報告（資料１参照）

１　第 61 回定期総会・研究大会

２　第 21 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテストの実施
　　第 17 回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼第 17 回全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選

３　第 61 回広島県高等学校英作文コンテストの実施

４　第 16 回広島県高校生英語ディベート大会の実施

５　公開研究授業の実施

６　英語部会の事業・自己研修に関する意識調査アンケートの実施

７　会誌 59 号のデジタル発行

報告２　令和６年度会計決算並びに監査報告

令和6年度広島県高等学校教育研究会収支決算書

部会名　英語部会

収入の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	増減	内訳
前年度繰越金	94,460	94,460	0	
会費	190,000	170,000	△ 20,000	1,000円×170人
県補助金	0	0	0	
寄付金・助成金	0	0	0	
参加費	25,000	30,000	5,000	5,000円×6校
雑収入	0	12	12	利息
合計	309,460	294,472	△ 14,988	

支出の部　（単位：円）

科目		予算額	決算額	増減	内訳
経費		201,152	188,468	12,684	
内訳	理事会費	28,000	25,700	2,300	定期総会会場使用料¥8,460、謝金¥17,240
	全英連会費	10,152	10,000	152	会費
	英作文コンテスト	20,000	19,950	50	賞状図書券¥3,000×2、¥2,000×2、¥1,000×4、¥500×8 送料¥1,950
	英語スピーチ・レシテーションコンテスト	85,000	92,490	△ 7,490	会場使用料¥43,240、謝金¥41,640 審査員弁当¥5,400　文具¥240　郵送料¥1,970
	英語ディベート大会	38,000	35,360	2,640	謝金¥28,360　弁当等¥7,000
	消耗品費	20,000	4,968	15,032	賞状
次年度繰越額			106,004		

諸帳簿並びに関係証拠書類を監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

令和 7 年 3 月 28 日

会計監査　広島県立宮島工業高等学校

竹内由美子

第１号議案　令和７年度本部役員並びに事務局に係る件

役職名	氏名	公職名
部会長	神笠　薫子	安西高等学校校長
副部会長	植田　　圭	尾道東高等学校校長
副部会長	矢野　由美子	熊野高等学校校長
副部会長	大道　伸幸	安芸府中高等学校校長
副部会長	西　巖弘	舟入高等学校校長
監事	取違　亜希子	広島皆実高等学校教頭
監事	龍王　理香	庄原格致高等学校教頭
監事	竹内　由美子	宮島工業高等学校定時制教頭
理事	久山　慎也	安芸府中高等学校指導教諭
理事	久保田　早苗	五日市高等学校
理事	片山　弥生	忠海高等学校
理事	藤岡　優子	上下高等学校
理事	上原田　望	安芸南高等学校
理事	中山　智恵子	西城紫水高等学校
庶務	豊島　唯顕	呉宮原高等学校
会計	有末　徹朗	広高等学校
庶務	尾﨑　二朗	呉三津田高等学校
庶務	宮内　花菜	音戸高等学校
庶務	森川　真由美	大柿高等学校

【事務局】

広島県立呉宮原高等学校

〒737-0024　呉市宮原三丁目１－１

TEL:(0823)21-9306　　FAX：(0823)21-9308

担当：豊島　唯顕

第２号議案　令和７年度事業計画に係る件（資料２参照）

1　広島県高等学校英作文コンテストの休止について

2　第 62 回定期総会並びに研究大会の開催

3　第 22 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト

4　第 17 回広島県高校生英語ディベート大会

5　公開研究授業の実施

6　英語部会の事業・自己研修に関する意識調査アンケートの実施

7　会誌 60 号のデジタル発行

第３号議案　令和７年度予算に係る件

令和７年度広島県高等学校教育研究会収支予算書（案）

部会名　英語部会

収入の部　（単位：円）

科目	予算額	積算内訳
会費	180,000	1,000円×180人
県補助金	0	
寄付金・助成金	0	
高校生育成事業参加費	30,000	英語ディベート大会5,000円×6校
前年度繰越金	106,004	
合計	316,004	

支出の部

科目		予算額	積算内訳
経費		160,152	
内訳	理事会費	28,000	定期総会会場使用料8,460円 謝金¥5,600*3=16,800円 雑費等
	全英連会費	10,152	会費10,000円　振込手数料152円
	県スピーチ・レシテーションコンテスト	64,000	謝金¥5,600*7=¥39,200　旅費¥820 審査員弁当、湯茶、文房具、郵送料、雑費等
	英語ディベート大会	38,000	謝金¥4,500*6=¥27,000、旅費¥2,020 審査員弁当・湯茶・雑費等
	消耗品費	20,000	文房具代、封筒代、ラベルシール代、通信代等含む
予備費		155,852	
合計		316,004	

その他

- 英語部会会費の納入期限は 8 月 15 日（金）まで

- 全英連より案内

- アンケート Form
  https://forms.gle/nzAF3nT7cnHsPxT47

第 62 回広島県高等学校教育研究会英語部会
研究大会

■ワークショップ（13:50 - 15:20）

テーマ：「個別最適な学びの実現を目指して」

講　師：広島大学外国語教育研究センター
　　准教授　山内　優佳　先生

【メモ】

■実践報告（15:30 - 16:10）

テーマ：「協働的で対話的な学び～ディベート指導を通して～」事例報告

報告者：講師　マーフィー パトリック　先生

広島県立尾道東高等学校

【メモ】

資料１

令和６年度広島県高等学校教育研究会研究活動実績報告書

部　会　名　　英　語　部　会

１　概要

部会名 所在地	広島県高等学校教育研究会 英　語　部　会 〒735-0004 安芸郡府中町山田５丁目１－１	会長	神　笠　薫　子 （広島県立豊田高等学校　）
		事務担当	久　山　慎　也 （広島県立安芸府中高等学校　）
		連絡先	０８２－２８２－５３１１ （広島県立安芸府中高等学校　）
目　的	本会は英語教育に係り広島県教育委員会の指導のもとに、学習指導要領の法令に則り、自主的・創造的な教育活動を行い、本県の高等学校、特別支援学校及び高等専門学校教育関係者の資質の向上への寄与と学校教育の振興を図ることを目的とする。		
役 職 名	氏　名(公職名)		
部会長	神笠　薫子（豊田　校長）		
副部会長	植田　　圭（尾道東高等学校長）	宮本　昌明（松永高等学校長）	
	矢野　由美子（熊野高等学校校長）		
理　　事	有末　徹朗（広高等学校）	越智　示帆（竹原高等学校）	
	福好　功伸（油木高等学校）	慶樂　友樹（日彰館高等学校）	
	佐々木　裕誠（河内高等学校）	野村　卓矢（千代田高等学校）	
監　　事	岡嵜　友一（音戸高等学校教頭）	龍王　理香（庄原格致高等学校教頭）	
	竹内　由美子（宮島工業高等学校（定）教頭）		
事務局長	久山　慎也（安芸府中　指導教諭）		
会 員 数	234 名　＜県立 198 名、市立 10 名　私立 10 名、国立 16 名＞		
会　費	１人当り　　1,000 円		

２　研究の目標等（今年度の研究における達成目標・評価指標・達成基準）

達成目標	評価指標	Ｒ６ 目標値	Ｒ６ 実績値
(1) 学びの変革の趣旨（主体的・対話的で深い学び）を踏まえた授業展開や教材開発を行っている。	目標を意識し実践したと思う教員の数が９割以上である。･･･ A 目標を意識し実践したと思う教員の数が８割以上である。･･･ B 目標を意識し実践したと思う教員の数が７割以上である。･･･ C 目標を意識し実践したと思う教員の数が７割に満たない。･･･ D	A	A
(2) 学びの変革（主体的、対話的で深い学び）と関わりのある内容について研究・研修を行っている。	目標を意識し実践したと思う教員の数が９割以上である。･･･ A 目標を意識し実践したと思う教員の数が８割以上である。･･･ B 目標を意識し実践したと思う教員の数が７割以上である。･･･ C 目標を意識し実践したと思う教員の数が７割に満たない。･･･ D	A	A

(3)高校生育成事業に応募する学校・生徒の数を増加させる。	英語スピーチ･レシテーションコンテストに参加する学校・生徒数が昨年度並みを維持する。（昨年度 23 校 70 名　R4 年度 22 校 94 名）	23 校 90 名	20 校 68 名
	英作文コンテストに参加する学校・生徒数が昨年度並みを維持する。（昨年度 20 校 1,779 名　R4 年度 19 校 2,952 名）	20 校 2,900 名	20 校 984 名
	英語ディベート大会に参加する学校数が昨年度並みを維持する。（昨年度４校　R4 年度７校）	５校	６校

3　研究の内容及び方法（目標達成に向けた取組の具体的な内容や方法等）

【達成目標(1)及び(2)について】

ア　県全体での教員研修会（７月）ならびに各地区での公開研究授業（11 月）を実施することにより、学びの変革（主体的、対話的で深い学び）と関わりのある内容について研究・研修を行う機会を設け、部会員による学びの変革を踏まえた授業展開や教材開発を支援した。
イ　評価指標に照らして評価を行うため、部会員対象のアンケート調査を行った（11 月）。
ウ　研究内容を共有するため、研究大会の報告記事や部会員によるレポート等を「会誌」に掲載した（３月）。

【達成目標(3)について】

ア　県内の高校生を対象として、英語スピーチ・レシテーションコンテスト（９月）、英作文コンテスト（10 月）、英語ディベート大会（10 月）を実施した。
イ　研究内容を共有するとともに、行事への生徒の参加を促進するため、高校生育成事業の報告記事及び優秀作品等を「会誌」に掲載した（３月）。

具体的な活動予定は次のとおりである。

令和６年６月５日（水）
　第１回理事会
令和６年８月 30 日（金）※台風の影響により順延
第２回理事会兼第 20 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト予選審査
令和６年９月 14 日（日）
第 21 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト本選
令和６年 10 月４日（金）
第３回理事会兼第 61 回広島県高等学校英作文コンテスト審査
令和６年 10 月 27 日(日)
第 16 回広島県高校生英語ディベート大会
令和６年 11 月
　英語部会公開研究授業、部会員アンケート調査
令和７年３月
　会誌の発行（デジタル発信）

4　研究成果の達成状況

【達成目標(1)及び(2)について】

・各地区理事の働きかけにより、以下の会場校にて公開研究授業を設定し、地区の部会員に案内している。
広島西地区：廿日市西高校(11/１(金))、広島東地区：安芸府中高校(11/５(火))、賀茂高校(11/８日(金))、呉地区：呉商業高校(11/15(金))、尾三地区：三原高校(11/18(月))、福山地区：大門高校(10/30(水))
・部会員対象のアンケート結果については、３月に発行する会誌で報告した。
・学びの変革に関わる内容として、観点別評価を通じて生徒の主体的、対話的で深い学びをどのように評価するかについて、県立広島大学より草薙邦広准教授を講師として招聘して教員研修会を実施した（７月 31 日(水)会場:サテライトキャンパスひろしま）。

【達成目標(3)について】

第 21 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト（９月 14 日（日）会場：広島市南区民センター）、第 61 回広島県高等学校英作文コンテスト審査（10 月４日（金）会場：安芸府中高校）、第 16 回広島県高校生英語ディベート大会（10 月 27 日(日)会場：安芸府中高校）の３つのコンテストを実施した。特にスピーチ・レシテーションコンテストは区民文化センタースタジオを借上げて保護者にも公開したため、参加者からも好評であった。各種コンテストの報告及び優秀作品については、３月発行の会誌に掲載し部会員にも周知を図った。

5　次年度に向けた研究活動の課題（評価指標・達成基準、研究方法、研究成果等について、令和７年度に向けた課題を記入する）

評価指標ならびに達成基準に関して、次年度に向けた変更は特に必要ないと考える。スピーチ・レシテーションコンテスト、英作文コンテスト、ディベート大会といった各種育成事業も従来の形態に戻りつつあり、参加者にとって有意義な発表の場を保障できている。ただし、英作文コンテストについては、生成 AI の普及によりコンテストの公平性が担保しにくい状況も生じてきており、実施の有無も含めた議論が今後は必要となっている。全英連では本年度限りで英作文コンテストは終了となっており、こうした動向も踏まえた検討が求められる。

７月に開催した教員研修について、部会員の関心の高い「主体的に学習に取り組む態度の評価」をテーマとして、本年度は会員校が実践報告を行うとともに、理論的な見地から大学教授によるワークショップを企画した。内容について、参加者からの評価も高く、今後も部会員が日々の実践で感じている課題に寄り添ったテーマ設定が求められる。

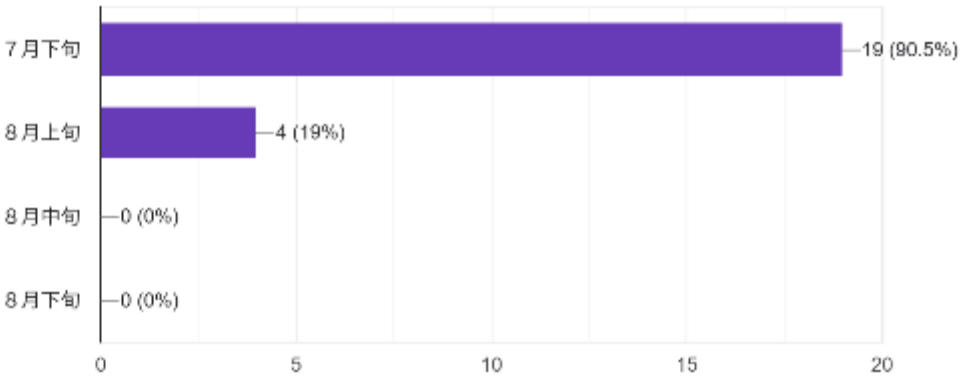
資料２

令和７年度広島県高等学校教育研究会英語部会事業計画

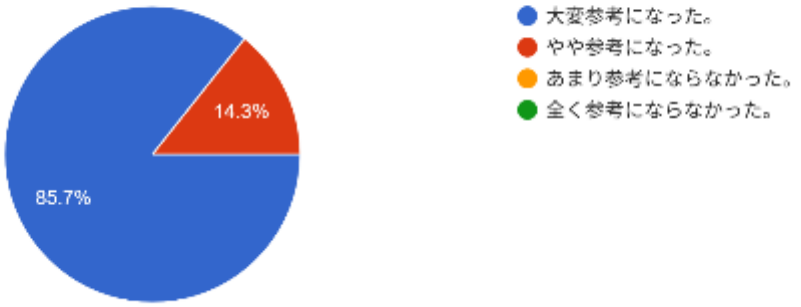
	事　業	会　場	備　考
５／８（木）	第１回事務局会議	広高等学校	対面
６／５（木）	第１回理事会	呉宮原高等学校、Zoom	対面・WEB 会議
７／28（月）	第 62 回広島県高等学校教育研究会英語部会定期総会・研究大会	サテライトキャンパスひろしま	
８／29（金）	第２回理事会 兼　第 22 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト　予選審査	呉宮原高等学校、Zoom	対面・WEB 会議
９／14（日）	第 22 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト	広島工業大学専門学校	審査委員長：三熊祥文（広島工業大学） 審査委員：未定（県教職員、ALT）
10 月	第３回理事会 第２回事務局会議	呉宮原高等学校、Zoom	対面・WEB 会議
10／26（日）	第 17 回広島県高校生英語ディベート大会	広島市立舟入高等学校	審査委員：是澤克哉（広島経済大学）
11 月	公開研究授業	６地区	実施時期は各実施校の状況による
３月	第 60 号会誌		デジタル配信

参加された先生方の声（アンケートより）

質問２：定期総会・研究大会の開催時期として適切だと思われるものを回答してください。
21 件の回答



質問３：ワークショップについて、当てはまるものを回答してください。
21 件の回答



・個別最適な学びについて、より詳しく事例とともに学ぶことが出来た。

・疑問に思っていたこと(質問させていただいたこと)について、質問にお答えいただいたため。　また、最新の英語教育界の話を聞けて興味深かったです。

・他県の学校の実践例が参考になりました。

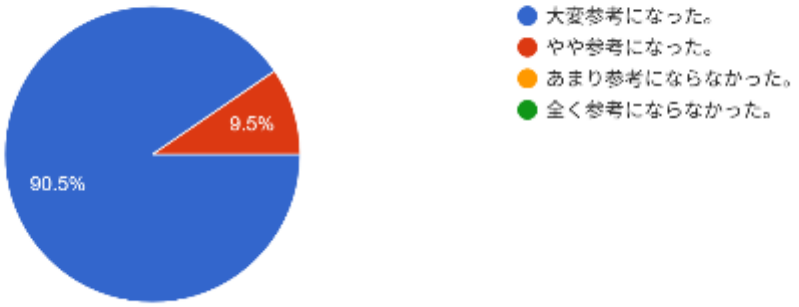
・ふだん触れられない知見を得られて充実した時間となりました。

・概念について勉強になったが、実際の指導に生かす具体例などについて高校での例なども　聞きたかったため。

・個別最適な学びの事例を詳しく聞くことで、自分が行う授業で取り入れることができそうな点　を学べたため。

・個別最適な学びの定義と協働的な学びとの関係や過去の実践事例等を知り、今の学校現場で　どのように AI 等を使用して授業を使っていくかについてイメージをすることができた。

質問５：実践報告について、当てはまるものを回答してください。
21 件の回答



・実際にやってみて、生徒に思考させたいポイントを見つけることができたため。

・ミニディベートを体験し、頭を使いました。ペアの先生の英語が流暢で刺激になりました。

・ディベートの指導方法をイメージできました。

・ディベートを実際に行う様子を体験でき、今後の指導に活かしてみたいと思ったから。

・実際にディベートを教員同士で行ってみて、ディベートの流れや授業でサポートした方が良い　点を実感できたため。

・ディベートを通して、批判的思考力を身につけさせることができることとその実体験をする　　ことができました。今回扱ったテーマはなかなか難しいテーマだったので、生徒に指導する際　は AI をディベートの練習の壁打ちの相手として練習させて、対人でのディベートを実施すると　いうような足場かけを行うことで自分の授業での実践も行うことができると思った。

質問７：本会全体を通して、感想や要望等があれば記入してください。

・参加して良かったです。ありがとうございました。

・大変勉強になりました。ありがとうございました。

・数年ぶりに英語部会の総会に出席させていただきました。ワークショップや実践報告に参加　し、他校の先生方と意見を交わすことで、校内だけでは学ぶことのできないことをたくさん　　得ることができました。ありがとうございました。

・個別最適な学びでは、フォームで意見をすぐに集約でき、他の教員の方々の考えがすぐに理解　できてよかったです。また、ディベートでは授業ですぐに使えそうなワークシートの例もいた　だき大変助かりました。

・県内の英語科教員が集まるこのようなタイミングでディベートの実施方法について学べたの　は非常に意義があると思いました。ありがとうございました。

事業報告３

■第 22 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト

令和７年７月４日

広島県高等学校教育研究会英語部会
関係高等学校長様
英語部会員様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部 会 長　　神 笠 薫 子
（広島県立安西高等学校校長）

第 22 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテストの開催について

皆様には益々御清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より本部会の活動に御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて標題のコンテストを次の要領により開催しますので御案内申し上げます。できるだけ多くの生徒のみなさんが参加できるように積極的にお取り計らいをいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

実施要項

１　目的

(1)　授業における音読活動の成果を発表する場を提供することにより、コミュニケーション能力の育成を図る。

(2)　日常生活の身近な話題や幅広い話題について自分の考えなどを英語で発表する機会を提供することにより、コミュニケーション能力の育成を図る。

２　主催　　広島県高等学校教育研究会英語部会

３　参加資格

(1)　スピーチ部門

広島県の国公私立高等学校及び高等専門学校(１～３学年)などの学校に在学する生徒。外国籍の生徒も参加できる。ただし、留学生は参加できない。

(2)　レシテーション部門

ア　広島県の国公私立高等学校及び高等専門学校(１～３学年)などの学校に在学する生徒。**英語を母語としない高校生で、大会当日までの過去３年間に海外在住期間が連続半年以内であること。**

イ　昨年のレシテーション部門で最優秀賞を獲得した生徒は今年度の同部門の参加はできない。

(3)　スピーチ部門・レシテーション部門　共通

広島県高等学校教育研究会英語部会の会員が勤務している学校に在籍する生徒であること。

（未加入の場合は審査当日までに会員登録と会費の納入を完了してください。完了していない場合は審査除外となります。）

４　規定

(1)　スピーチ部門

ア　主題「私の主張」に基づきタイトルは自由とする。

イ　制限時間は**４分 30 秒以上５分 30 秒以内**とする。

(2)　レシテーション部門

ア　題材は生徒の該当学年の教科書（教材も含めて）を暗唱する。

英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢの教科書を原則に選定すること。

なお、検定教科書であれば使用教科書以外からの選定も可とする。

イ　制限時間は**３分以内**とする。

ただし、制限時間内であれば使用する教材を編集しても構わない。

５　応募期限（音声データ提出期限）　令和７年８月 22 日（金）必着

「６　応募方法」参照

６　応募方法

※　**参加申込**：令和７年**７月 25 日（金）までに**電子メールで申し込む。

↓

※別紙「応募票」に必要事項を記入のうえ、電子メールに添付して送付してください。

送付先アドレス　j-ozakis87662k@hiroshima-c.ed.jp

広島県立呉三津田高等学校内

英語部会事務局　尾﨑二朗

※　７月 30 日～８月４日を目安に、事務局から参加校の担当者メールアドレスに**音声データの提出方法について通知が届く。**

↓

※　**音声データの提出**：令和７年**８月 22 日（金）（必着）**までに

〇CD 郵送の場合：呉三津田高校へ郵送する

〇音声データの場合：通知に示された Google ドライブへアップロードする。

※「７　応募上の留意点」参照

7　応募上の留意点

(1)　英文原稿の様式について

Ａ４用紙縦、中央にタイトル、タイトル下の右側に部門名・学校名・学年・氏名・年齢及び性別を全て記入し、更にローマ字で氏名を書きそえること。

（例）　　（タ　　イ　　ト　　ル） スピーチの部 ○○立△△高等学校 １年・英語太郎・16 歳・男 EIGO、 Taro

(2)　録音について（音源）

ア　**最初に学年・氏名・タイトルを読んでから原稿に入る。**

イ**【CD で郵送する場合】**

CD で提出する場合は、各学校で、スピーチ部門、レシテーション部門ごとに１枚とする。

①参加者ごとにトラックを分ける。

②CD は順番がわかるように明記する。（チャプターを明記）

※ファイル名は部門名・学校名・学年及び氏名を明記する。注意：明記されていない場合は、審査の対象外となります。

ウ**【Google ドライブに提出する場合】**

通知に示された Google ドライブに提出する。

(3)　応募数について

スピーチ部門１校５名以内、レシテーション部門１校 10 名以内とする。

(4)　その他

・応募された CD は返却しない。

・本選で最優秀賞・優秀賞を獲得したスピーチ部門英文原稿は、英語部会会誌に掲載される。

8　予選・本選について

(1)　**予選**

ア　期日　　令和７年８月 29 日（金）13:30～16:30

イ　会場　　広島県立呉宮原高等学校

〒737-0024　広島県呉市宮原三丁目１－１

TEL 0823-21-9306　　FAX 0823-21-9308

ウ　選考　　各校からの音声データ及び英文原稿をもとに選考委員が行う（理事）。

エ　審査基準

（ア）スピーチ部門

社会問題を提起し、積極的な意見の主張であることを基本に、発音や抑揚を総合的に判

断する。

・本選決定について

原稿と音源により **10 名の本選の出場者を選出**する。

（イ）レシテーション部門

発音や抑揚、デリバリーを中心に総合的に判断する。

・本選決定について

原稿と音源により **15 名の本選出場者を選出**する。

ただし、本選に出場できるのは、スピーチ部門１校２名以内、レシテーション部門**１校３名以内**とする。

オ　通知　　予選審査結果及び正式な本選案内は９月３日（水）前後に学校に通知する。

(2)　**本選**

ア　期日　　令和７年９月 14 日（日）

イ　会場　　広島工業大学専門学校　１階

〒733-8533 広島県広島市西区福島町 2 丁目 1-1

TEL 082-295-5111

ウ　日程（予定）

受付	10:00 ～ 10:30
開会行事	10:30 ～ 10:45
レシテーション部門発表	10:50 ～ 12:05
昼食	12:05 ～ 12:50
スピーチ部門発表	12:55 ～ 14:15
審査	14:25 ～ 15:00
審査結果発表・表彰	15:05 ～ 15:20
閉会行事	15:20 ～ 15:35

エ　その他

・来場の際は、公共交通機関を使ってお越しください。駐車場はありません。
・飲食は可能です。
・女子トイレの数は少ないので、ご了解ください。
・当日は、７階で国家試験の受験を実施しております。

９　表彰

○スピーチ部門

最優秀賞（１名）　優秀賞（１名）　優良賞（２名）

○レシテーション部門

最優秀賞（１名）　優秀賞（１名）　優良賞（２名）

○学校優良賞（参加校の中から優れた作品を出品した学校）

10　中国大会について

スピーチ部門の上位２名は中国地区大会に出場する権利を得る。ただし、２名の内少なくとも１名は、次の(1)～(3)のいずれにも該当しない者とする。

(1) 満５歳の誕生日以後に、通算１年以上または継続して６ケ月以上、英語圏（英語を第一言語、公用語、または公用語に準ずる言語として使用する国、地域）に居住した者。 ※英語圏詳細については別途、全英連ホームページに掲載される。
(2) 日本国内、海外を問わず、６ケ月以上、英語以外の教科に関し、実態として英語による教育を行っている学校（アメリカン・スクール、インターナショナル・スクール、または授業科目の半分以上を英語で教育を行っている学校を含む）に在籍し、その教育を受けたことのある者。
(3) 満５歳の誕生日以後に、保護者または同居親族に、英語を母語とする者、もしくは英語圏出身の者がいる場合。

大会名：第17回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼第17回全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選

日　時：令和７年11月22日（土）

場　所：下松中央公民館（ほしらんど　くだまつ）

（問い合わせ先・応募先）

■第22回広島県高校生スピーチ･レシテーションコンテスト　係
〒737-0814 広島県呉市山手１丁目5-1
広島県立呉三津田高等学校　内
担当　尾崎二朗
Ｅﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ:j-ozakis87662k@hiroshima-c.ed.jp
TEL 0823-22-7788　FAX 0823-25-8615

広島県高等学校教育研究会英語部会事務局
〒 737-0024 呉市宮原三丁目１－１
広島県立呉宮原高等学校
担当　豊島　唯顕
TEL:(0823)21-9306　　FAX：(0823)21-9308
E-mail:t-toyoshimas89024k@hiroshima-c.ed.jp

第 22 回 広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト本選出場者

レシテーションの部

No.	NAME	SCHOOL	YEAR	TITLE
1	大地　美緒 OHCHI、Mio	広島大学附属高等学校	2	How Did Pink Become a “Girl’s Color” in America?
2	佐原　樺音 SAHARA、Kanon	広島県立三次青陵高等学校	1	Bailey The First Hospital Facility Dog in Japan
3	平本　菜々子 HIRAMOTO、Nanako	広島大学附属高等学校	1	Christian the Lion
4	道下　優生華 MICHISHITA、Yuika	広島県立三次青陵高等学校	1	Bailey The First Hospital Facility Dog in Japan
5	原田　千尋 HARADA、Chihiro	広島大学附属福山高等学校	1	Love beyond Species
6	中野　カイオ NAKANO、Kaio	広島県立安芸府中高等学校	1	The Jar of Life
7	名桑　千尋 NAGUWA、Chihiro	呉市立呉高等学校	2	A Message from Emperor Penguins
8	山口　陽菜 YAMAGUCHI、Haruna	広島大学附属高等学校	1	Twice Bombed, Twice Survived
9	長尾　幸菜 NAGAO、Yukina	呉市立呉高等学校	1	Enjoy Your Journey!
10	橋田　紗羽 HASHIDA、Sau	広島県立広島高等学校	2	Stay Hungry, Stay Foolish
11	沼田　桜子 NUMATA、Sakurako	広島市立広島中等教育学校	1	Top Tips for Engaging Anecdotes
12	龍河　華凛 TATSUKAWA、Karin	広島県立広島国泰寺高等学校	2	Crossing the Border *—Médecins Sans Frontières—*
13	矢島　優羽 YAJIMA、Yu	広島県立安古市高等学校	1	Christian the Lion



スピーチの部

No.	SCHOOL	YEAR	NAME	TITLE
1	広島大学附属高等学校	1	齊藤 瑞乃 SAITO、Tamano	Playing the piano taught me “Silence brings no peace”.
2	広島県立豊田高等学校	2	アンティロ・ハナ・レカ・タボラ ANTERO HANNA RECCA TABORA	Kindness
3	広島県立広高等学校	2	大橋 琴子 OHASHI、 Kotoko	Are You Afraid of Expressing Yourself?
4	広島県立安芸府中高等学校	2	マハルザン イヴァ MAHARJAN、 E va	I am Enough As I am
5	広島県立広島高等学校	2	江渕　碧衣 EBUCHI、Aoi	Does Less Mean More? My Views about the World
6	広島県立安芸府中高等学校	2	濵井　雅藍 HAMAI, Mia	Invisible Labels
7	AICJ 高等学校	1	小西眞由 KONISHI、Mayu	Educational disparity
8	福山暁の星女子高等学校	3	羽賀　小夏 HAGA、Konatsu	Am I Evil?
9	広島大学附属福山高等学校	1	鯉沼 さつき KOINUMA、 Satsuki	What Fukuyama Can Do for Peace
10	広島市立広島商業高等学校	2	重松　桜子 SHIGEMATSU、Sakurako	Who are you?

第 22 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト審査結果

レシテーションの部

	NAME	SCHOOL	TITLE
最優秀賞	中野　カイオ	広島県立安芸府中高等学校	The Jar of Life
優秀賞	矢島　優羽	広島県立安古市高等学校	Christian the Lion
優良賞	山口　陽菜	広島大学附属高等学校	Twice Bombed, Twice Survived
優良賞	橋田　紗羽	広島県立広島高等学校	Stay Hungry, Stay Foolish

スピーチの部

	NAME	SCHOOL	TITLE
最優秀賞	濵井　雅藍	広島県立安芸府中高等学校	Invisible Labels
優秀賞	重松　桜子	広島市立広島商業高等学校	Who are you?
優良賞	アンティロ ハナ レカ タボラ	広島県立豊田高等学校	Kindness
優良賞	マハルザン イヴァ	広島県立安芸府中高等学校	I Am Me, and That's Enough
優良賞	羽賀　小夏	福山暁の星女子高等学校	Am I Evil?

学校優良賞

広島県立安芸府中高等学校

第 18 回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト応募資格者

広島県立安芸府中高等学校　濵井　雅藍

福山暁の星女子高等学校　　羽賀　小夏



第１８回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト
兼 第１８回全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選

日時 令和７年１１月２２日（土）１３：００～１６：００

会場 下松中央公民館（ほしらんど くだまつ）

主催 第１８回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト山口県実行委員会 後援
鳥取県教育委員会，島根県教育委員会，岡山県教育委員会，広島県教育委員会，
山口県教育委員会，（公財）日本教育公務員弘済会 山口支部，NHK 山口放送局

********** 日 程 **********

１ 受付 １２：００～１２：２５

２ 開会式 １３：００～
開会挨拶，審査員紹介，確認事項

３ コンテスト １３：２０～１４：５０

４ 閉会式 １５：３０～１６：００
審査結果発表，表彰，審査員講評

********** 注意事項 **********

★コンテストについて★

１ 制限時間は，４分３０秒～５分３０秒です。
４分、４分３０秒、５分、５分３０秒の時点でカードを提示します。計時は，生徒の第一 声から開始します。また，５分３０秒で１回卓上ベルを鳴らします。

２ ４分３０秒に満たなかった場合や５分３０秒を超えた場合は，減点の対象になります。

３ 内容５０点，英語３０点，態度２０点で採点します。得点を集計し，それを基に審査員が 協議して，順位を決定します。

４ 上位３名を決定するとともに、全員を表彰します。

５ 上位２名は，令和８年２月８日（日）に開催される全国大会への出場権を得ます。

THE 18TH CHUGOKU ENGLISH SPEECH CONTEST FOR HIGH SCHOOL STUDENTS

Date: November 22nd, 2025

Time: 1:00 p.m. - 4:00 p.m.

Venue: Kudamatsu Central Community Center (Hoshiland Kudamatsu)

✶✶

PROGRAM

1 Registration 12:00 ～ 12:25 2 Opening Ceremony 13:00 ～

- Opening Address
- Introduction of the Judges
- Announcements

3 Contest 13:20 ～ 14:50

4 Closing Ceremony 15:30 ～ 16:00

- Announcement of Judging Results
- Awarding Prizes
- Comments by the Judges

✶✶

Criteria : Total 100（Content 50, English 30, Delivery 20）

Time : 4½～5½ minutes

1) Time measurement will be started at the first voice of the speaker. 2) Cards (4mins, 4½mins, 5mins, 5½mins) will be shown to the speaker. 3) Points of speeches ending before 4½ mins or after 5½ mins will be reduced. 4) At 5½ mins, we will ring the bell once.

Awards :

1) 1st, 2nd and 3rd Prizes and Honorable Mentions for the rest of the speakers. 2) The top two speakers qualify for the final round in Tokyo on February 8, 2026.

第 18 回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト　審査結果

第１位　広島県立安芸府中高等学校　濵井　雅藍

優秀賞　福山暁の星女子高等学校　　羽賀　小夏

事業報告４

■第 17 回広島県高校生英語ディベート大会

令和７年８月 18 日

各 高 等 学 校 長 様
各 特 別 支 援 学 校 長 様
英 語 部 会 員 様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部 会 長　　神 笠 薫 子
（広島県立安西高等学校長）

第 17 回広島県高校生英語ディベート大会兼全国大会予選会の開催について（御案内）

残暑の候　皆様には益々御清栄のこととお喜び申しあげます。平素から本部会の活動に御理解と御支援をいただき心より感謝申し上げます。

さて、標記の会を次の要領により開催いたします。校務等で御多忙中とは存じますが多数の御参加をいただきますようお願い申し上げます。

１　期　日　　令和７年 10 月 26 日（日）
２　会　場　　広島市立舟入高等学校
〒730-0847　広島市中区舟入南一丁目４番４号
TEL 082-232-1261　FAX 082-232-5914

３　日　程　　※日程は参加チームの数によって変更の可能性があります。
8:40 － 9:00　受付　　（ジャッジ打ち合わせ 8:40 ～）
9:00 － 9:15　開会式
9:25 － 10:25　第１試合
10:35 － 11:35　第２試合
11:45 － 12:45　第３試合
12:45 － 13:30　昼食
13:30 － 14:30　第４試合
14:40 － 15:40　第５試合（順位決定戦）
15:40 － 16:25　審議
16:25 － 16:55　表彰式・閉会式

４　申込期限　　令和７年９月 22 日（月）必着

５　参 加 費　　各チーム　5,000 円（当日会場でお支払いください。）

６　申込方法
学校単位で別紙参加申込用紙に必要事項を御入力の上、次のメールアドレスに申し込んでください。
E-mail: t-toyoshimas89024k@hiroshima-c.ed.jp
※メール及びファイルの件名は、「R07 ディベート【学校名】」としてください。
（例）R07 ディベート【呉宮原】

７　その他
(1)　参加校の先生にはジャッジに加わっていただきます。

(2)　英語部会の会員がいない学校で、生徒が参加される場合は教員が事前に加入され、会費費の納入をお願いします。

■補足資料　HenDA のホームページより
Resolved: That the Japanese Government should ban children under 16 years old from using social media.
日本政府は 16 歳未満の子どもがソーシャルメディアを利用することを禁止すべきである。是か非か。

※2025 年 12 月 20 日/21 日日　埼玉県（東京国際大学）で開催予定

問い合わせ：広島県高等学校教育研究会英語部会事務局
〒737-0024 呉市宮原三丁目１－１
広島県立呉宮原高等学校
担当　豊島　唯顕
TEL:(0823)21-9306　　FAX：(0823)21-9308
E-mail: t-toyoshimas89024k@hiroshima-c.ed.jp

Hiroshima English Debate Competition for High School Students

令和７年１０月２６日（日）

広島市立舟入高等学校

1　論題　Resolution

Resolved: That the Japanese government should ban children under 16 years old from using social media.
日本政府は、16 歳未満の子どもがソーシャルメディアを利用することを禁止するべきである。是か非か。

2　日程　Schedule

8:40　－　9:00　Reception 受付
（Meeting for Judges　ジャッジ打ち合わせ 8:40 ～）
9:00　－　9:15　Opening Ceremony 開会式：国際コミュニケーションホール

9:25　－ 10:30	First Game	第１試合　（予選①）
10:40　－ 11:45	Second Game	第２試合　（予選②）
11:45　－ 12:30	Lunch Break	昼食
12:30　－ 13:35	Third Game	第３試合　（予選③）
13:45　－ 14:50	Fourth Game	第４試合　（予選④）
15:00　－ 16:00	Final Game(if necessary)	第５試合　（決勝戦）
16:00　－ 16:30	Deliberation	審査

16:30　－　16:55　Celebration and Closing Ceremony
表彰式・閉会式：国際コミュニケーションホール

3　審査員　Members of the Judging Panel

是澤　克哉（広島経済大学）－Chairperson of the Panel　審査委員長
KORESAWA, Katsuya (Hiroshima Keizai University)
柏原　奨平（広島市立舟入高等学校）
KASHIHARA, Shohei (Hiroshima Municipal Funairi Senior High School)
スミス　フローレンス（広島女学院高等学校）
SMITH, Florence (Hiroshima Jyogakuin Senior High School)
マーフィー　パトリック（広島県立尾道東高等学校）
MURPHY, Patrick (Hiroshima Prefectural Onomichi Higashi Senior High School)
藤沢　崇志（広島県立広島高等学校）
FUJISAWA, Takashi (Hiroshima Prefectural Hiroshima Senior High School)
サウザー　アシュリー（武田高等学校）
SOUTHER, Ashley (Takeda Senior High School)
中田　麻由子（広島県立尾道東高等学校）
NAKATA, Mayuko (Hiroshima Prefectural Onomichi Higashi Senior High School)

4　試合形式　Debate Format

Affirmative Constructive Speech	肯定側立論	（4分）
――― Preparation Time ―――	準備時間	（1分）
Questions from the Negative	否定側質疑	（2分）
Negative Constructive Speech	否定側立論	（4分）
――― Preparation Time ―――	準備時間	（1分）
Questions from the Affirmative	肯定側質疑	（2分）
――― Preparation Time ―――	準備時間	（2分）
Negative Attack	否定側アタック	（3分）
Questions from the Affirmative	肯定側質疑	（2分）
Affirmative Attack	肯定側アタック	（3分）
Questions from the Negative	否定側質疑	（2分）
――― Preparation Time ―――	準備時間	（2分）
Affirmative Defense	肯定側ディフェンス（3分）	
Negative Defense	否定側ディフェンス（3分）	
――― Preparation Time ―――	準備時間	（2分）
Affirmative Summary	肯定側総括	（3分）
Negative Summary	否定側総括	（3分）　計　42分

5　対戦表　Competition Table　　(A):Affirmative (N):Negative

第1試合(First Game)	A校(A) vs B校(N)	C校(A) vs D校(N)
	会場①　2階	**会場②　3階**
	E校(A) vs F校(N)	
	会場③　4階	
第2試合(Second Game)	B校(A) vs E校(N)	D校(A) vs A校(N)
	会場①　2階	**会場②　3階**
	F校(A) vs C校(N)	
	会場③　4階	
第3試合(Third Game)	__校(A) vs __校(N)	__校(A) vs __校(N)
	会場①　2階	**会場②　3階**
	__校(A) vs __校(N)	
	会場③　4階	
第4試合(Fourth Game)	__校(A) vs __校(N)	__校(A) vs __校(N)
	会場①　2階	**会場②　3階**
	__校(A) vs __校(N)	
	会場③　4階	
決勝戦 (Playoff)	__校(A) vs __校(N)	この対戦における肯定側・否定側は，先に直接対戦した際のものとは逆側とする。
	会場①　2階	

会場①→国際コミュニケーションホール（北棟2階）

会場②→地歴科教室（北棟3階）

会場③→公民科教室（北棟4階）

※本選対象校のアルファベットは，当日抽選で決定します。

6　参加校及び参加生徒（全５校・予選６チーム）　Participating Schools & Students

（１）

学校名	広島市立舟入高等学校		
*代表者名（先生）	柏原　奨平（KASHIHARA, Shohei）		
#	氏名	ローマ字	学年
1	明石　華	AKASHI, Hana	2
2	倉本　志瑛	KURAMOTO, Shie	2
3	髙原　孝太	TAKAHARA, Kouta	2
4	任　紹銘	REN, Shoumei	2
5	梶谷　光優	KAJITANI, Miyu	1
6	坂本　芭那	SAKAMOTO, Hana	1
7	妹尾　星利	SEO, Kirari	1
8	寒川　伊織	SOGAWA, Iori	1
9	吉岡　花那	YOSHIOKA, Hana	1

（２）

学校名	広島女学院高等学校		
*代表者名（先生）	スミス　フローレンス(SMITH, Florence)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	松井　優来	MATSUI, Yuki	2
2	小西　琉心	KONISHI, Rumi	2
3	清信　理穂子	KIYONOBU, Rihoko	2
4	藤井　珠	FUJII, Tamaki	2
5	岩田　和奏	IWATA, Wakana	1
6	羽田　はるか	HADA, Haruka	1

（３）two teams ２チーム参加

学校名		広島県立尾道東高等学校		
*代表者名（先生）		マーフィー　パトリック(MURPHY, Patrick)		
#		氏名	ローマ字	学年
2	A	後藤　寿英妃	GOTO, Jewel	2
3	A	近藤　日葵	KONDO, Hinoa	2
4	A	武田　りいな	TAKEDA, Riina	2
5	A	中津　帆波	NAKATSU, Honami	2

1	B	大出　天晴	ODE, Tenchin	2
6	B	藤井　桜子	FUJII, Sakurako	2
7	B	河村　雛乃	KAWAMURA, Hinano	1
11	B	森山　桜大	MORIYAMA, Ota	1
8	S	田頭　胡昂	TAGASHIRA, Utaka	1
9	S	田頭　那紬	TAGASHIRA, Natsumu	1
10	S	寺尾　友杏	TERAO, Yua	1
12	S	山際　裕二朗	YAMAGIWA, Yujiro	1
13	S	山根　百里子	YAMANE, Yuriko	1

S=Supporting Members

（4）

学校名	広島県立広島高等学校		
*代表者名（先生）	藤沢　崇志(FUJISAWA, Takashi)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	後藤　央乃	GOTO, Hisano	2
2	菅田　芽依	SUGATA, Mei	2
3	片山　佑月	KATAYAMA, Yuzuki	2
4	竹野　舞	TAKENO, Mai	2
5	森木　美音莉	MORIKI, Miori	1
6	三坂　耕太郎	MISAKA, Kotaro	1
7	手塚　輝希	TEZUKA, Koki	1
8	廣瀬　菜々子	HIROSE, Nanako	1

（5）

学校名	武田高等学校		
*代表者名（先生）	サウザー　アシュリ（SOUTHER, Ashley Roger）		
#	氏名	ローマ字	学年
1	鳥尾　征永	TORIO, Motohisa	2
2	サウザー　ソフィア	SOPHIA, Souther	2
3	渕上　ユーカリ	FUCHIGAMI, Yukari	2
4	石井　みわ	ISHII, Miwa	2
5	内藤　ゆき奈	NAITO, Yukina	2
6	狩谷　愛波	KARIYA, Aina	2
7	川端　乃慧	KAWABATA, Noe	1
8	枝岸　幸凛	EDAGISHI, Yurin	1

第 17 回広島県高校生英語ディベート大会兼全国大会予選会　結果

優勝　　広島県立尾道東高等学校

準優勝　広島市立舟入高等学校

３位　　広島女学院高等学校

※優勝校　尾道東高等学校は「第 20 回全国高校生英語ディベート記念大会 in 埼玉」に広島県代表として出場　（令和７年 12 月 20 日(土)～21 日(日)）

ベストディベーター―　岩田　和奏 Iwata Wakana　広島女学院高等学校

グッドディベーター―　中津　帆波 Nakatsu Honami　広島県立尾道東高等学校

倉本　志瑛　Kuramoto Shie　広島市立舟入高等学校

菅田　芽依 Sugata Mei　広島県立広島高等学校

第 17 回広島県高校生英語ディベート大会　講評

審査委員長　広島経済大学　是澤　克哉　先生

First of all, this is like almost 10 times to judge as a team judge. Every time I was surprised at the level of the Hiroshima Prefecture. The first time I explained in the final round, last round, I judged. The first time I judged this, the participants only like two or three teams didn't prepare a lot, didn't have a practice match. So at that time, the level of the Hiroshima Prefecture is getting higher and higher. I was really impressed with your ability of the debating. So I'd like to congratulate the debaters who participated in this wonderful contest. So please give debaters a big hand firstly.

And also I'd like to thank Kamigasa Sensei. She is the head of the Hiroshima Eigo Bukai. Without her support we can't make this wonderful contest. So please, other teachers also support Eigo Bukai. I'd like to thank you for your wonderful support. So please give the Eigo Bukai member a big hand. And also, teachers from Funairi Senior High School.

The first time I met Nishi Sensei, he was a debate coach of the Funairi Senior High School. Then he moved to the different school and came back at Funairi as a principal. And without his generous support of the debate activity, we can't have the debate tournament in a wonderful place, the center of Hiroshima. So, please, thank you very much, Nishi-sensei. So, please give a big hand for the teacher. Thank you.

And also, your teachers and debate coaches. This is, you know, I got some stipends, but the teachers, it's kind of volunteer work. So I'd like to thank you the debate teachers. from Onomichi Higashi, Hiroshima, Takeda, and Funairi and Jogakuin, thank you very much for your continuous generous support for the students.

To be honest, the level is very close. This time, three teams got the same votes. So really, really tough to make a decision. But before getting into the announcement, I'd like to make some comments briefly to be a better debater.

Yeah, I watched some debate rounds and generally your debate skills are wonderful. So I like to congratulate the debatability at the same time But since the HEnDA started the debate for 15 or 16 years. They are kind of like a big community, using a big English language organization or something. They use their specific debate jargon these days. They love to use the HEnDA English.

So I hope in Hiroshima, want to use that debate, or should not use that debate jargon, and try to explain your own words. That's the first thing I just want Hiroshima debaters to do for the next debate.

Debates are often criticized by the fast delivery. Everyone tries to read evidence very fast. That is the main criticism of the people who don't like debate. So, we need to show our activity is wonderful and many people want to do it. So try not to use debate jargon, use your plain English, try to persuade judges, not the debaters. That's the kind of thing I just want everyone to do it.

And also, these days, many Japanese media use a lot of the debate, especially like a liberal democratic party has debated five candidates, like Takaiichi Koizumi, and watching that argument, I think that's not the debate at all. This is like a speech. The debate skill, I think the high school debaters are much better than the debate skill. Compared with the Japanese politicians, for sure. So please be confident. You should be the leader of the future of Japan. And I think you guys have a potential to do it. So yeah, compared with the Japanese people, I think you did a great job.

and also you use a second language, not your mother tongue, so that is also a great thing to do it, so if you learn the different language you need to learn the different cultures as well so please be confident of your activity so yeah I think so you guys are really wonderful and and I just appreciate it.

The third thing I just wanted to make is to be, this is, I often say about that, many people say to respect opponents. People say like, try to respect opponents, but not to respect their arguments.

In case of the arguments, the debater tends to say, there is no impact, there is no connection, no explanation, try to deny everything. I think as a former policy debater, that's really a bad way to persuade judges. Judges have to wait for persuasive argument to make a decision. So if you want to win the debate you have to respect not only debaters but also opponents' arguments as well So you have to think even if use a word even if their argument stands we are still winning because of that.

That's the thing I just want the debaters to improve. If you respect the opponents, you should respect the argument itself.

And also, I often say, please use your constructive speech often in your final speeches, like defense speech or summary speech. Because I know it's kind of hard to do research and cut many pieces of evidence to back up your opinions, and claims. So in the debate, I think the round is going deep. Most of the debaters tend to forget what your previous argument, and judge as well.
So if you want to make a great argument, a better argument, use your previous arguments and extend it in your rebuttal or the summary or defense speech, so that I'm sure judges can understand you are on the right track. The debate will not make a new argument. Alright, that's only my comments about the debate of Hiroshima.

To be honest, please be proud of your activity. I think all participants, I understand the preparation is really hard and you have to take like a mock exam or have to go to the school trip. A lot of things you have to do but you created the precious time to prepare for this tournament so I thank you for all the participants.



事業報告５

■英語教育及び研修に関するアンケート

令和７年 11 月 11 日

部会員の皆様へ

高等学校教育研究会英語部会

英語教育及び研修に関するアンケート

調査の目的

このアンケートは次の目的のために実施します。英語部会研究活動の年度末自己評価のために必要な調査ですので、ぜひご協力をお願いします。

回答方法

① 英語部会の目標(1)(2)の達成状況を調査し、よりよい研修機会を提供するための資料とする。
　(1)「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」の趣旨を踏まえた授業展開や教材開発を行う。
　(2)「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」と関わりのある内容について研究・研修を行う。
② 英語部会の目標(3)に基づき実施している事業の課題を明らかにし、改善を図る。
　(3) 高校生育成事業に応募する学校数・生徒数を増加させる。

- コピーをして各回答者に配付してください。
- 各校の英語科代表又は英語部会員代表の先生が、集計して別紙の「アンケート集計用紙」に入力し、英語部会事務局まで返信してください。
- メールまたは FAX にて、集計用紙に記された宛先に、12 月 25 日（木）までに返信してください。メールの場合は、ファイル名をアンケート集計（学校略称）としてください。
  （例）アンケート集計（呉宮原）

アンケート項目

【１】本年度（４月～現在、又は３月までの予定）の達成目標について該当する番号を〇で囲んでください。

１　英語部会の達成目標(1)についてお尋ねします。次の①～④のうち１つを選んでください。

「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」の趣旨を踏まえた授業を展開した、あるいは教材を開発した。

①大いに当てはまる　　②ある程度当てはまる
③あまり当てはまらない　　④まったく当てはまらない

２　英語部会の達成目標(2)についてお尋ねします。「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」と関わりのある内容に関して、どのような内容について研究・研修に取り組まれましたか。次の①～⑤から選んでください（複数選択可）。

①　目標・評価について（外国語科に限らない）
　（例）評価指標（ルーブリック）の開発・使用について
　　CAN-DO 形式による学習到達目標の開発・使用について
　　多様な評価方法（例えばパフォーマンス評価）について
　　評価の観点について

②　教授法・指導法について（外国語科に限らない）
　（例）「能動的な学び」「主体的な学び」「アクティブ・ラーニング」について
　　「課題発見・解決学習」「探究的な学び」「教科の枠を越えた学び」
　　「思考力・判断力・表現力等の育成」「言語活動の充実」について
　　「見方・考え方」を働かせた授業について「ディベート活動」について

③　異文化間協働活動の推進について（外国語科に限らない）

（例）外国人との交流・姉妹校交流（Web 会議、交流プログラム開発）について
生徒の異文化体験・海外留学について
グローバル・マインドの育成について
SDGs や WWC に関わるプログラム開発について

④　特に外国語科の指導に関連する内容について
（例）英語の４技能５領域（聞く・読む・話す（やり取り/発表）・書く）の育成について
主として英語を用いて英語の授業を行うことについて
英語教員としての英語力の向上について

⑤　その他（　　）

３　英語部会の達成目標(2)についてお尋ねします。「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」と関わりのある内容に関して、どのような機会において研修に取り組まれましたか。次の①～⑨から選んでください（複数選択可）。

①校内の研究・研修　②県教育委員会の研修会　③他校の公開研究授業
④民間の研究団体や企業の研修会　⑤国内・海外の大学の研修会
⑥自主研究グループの活動　⑦教育に関する書物・雑誌購読やインターネットによる情報
⑧その他（　　）
⑨「学びの変革」と関わりのある内容に関して、特に研修はしていない。

４　現在、どのような分野・テーマの研修をしたいと思われていますか。
（　　）

【２】英語部会主催の１・２の高校生育成事業に関して、次の項目(a)～(c)について、それぞれお答えください。
１　英語スピーチ・レシテーションコンテスト（８月 29 日予選→９月 14 日本選）
２　英語ディベート大会（10 月 26 日）

(a)　①生徒を参加させた、あるいは生徒に案内した。 ②生徒を参加させなかった、あるいは案内しなかった。 ③本校の誰も開催されるのを知らなかった。 (b)　②と答えられた学校は、その理由をお書きください。 (c)　この事業に来年度貴校の生徒を参加させるために、あるいはこの事業を更によいものにするために、改善するべき課題があればお書きください。

ご協力ありがとうございました。後日、会誌で結果を報告させていただきます。

■「英語教育及び研修に関するアンケート」結果

１　調査の目的

■英語部会の目標(1)(2)の達成状況を調査し、よりよい研修機会を提供するための資料とする。
達成目標(1)：「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」の趣旨を踏まえた授業展開や教材開発を行う。
達成目標(2)：「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」と関わりのある内容について研究・研修を行う。
■英語部会の目標(3)に基づき実施している事業の課題を明らかにし、改善を図る。
達成目標(3):高校生育成事業に応募する学校数・生徒数を増加させる。

２　回答方法

各校の英語科代表者又は英語部会員代表者が各校分を集計し、英語部会事務局まで返信する。

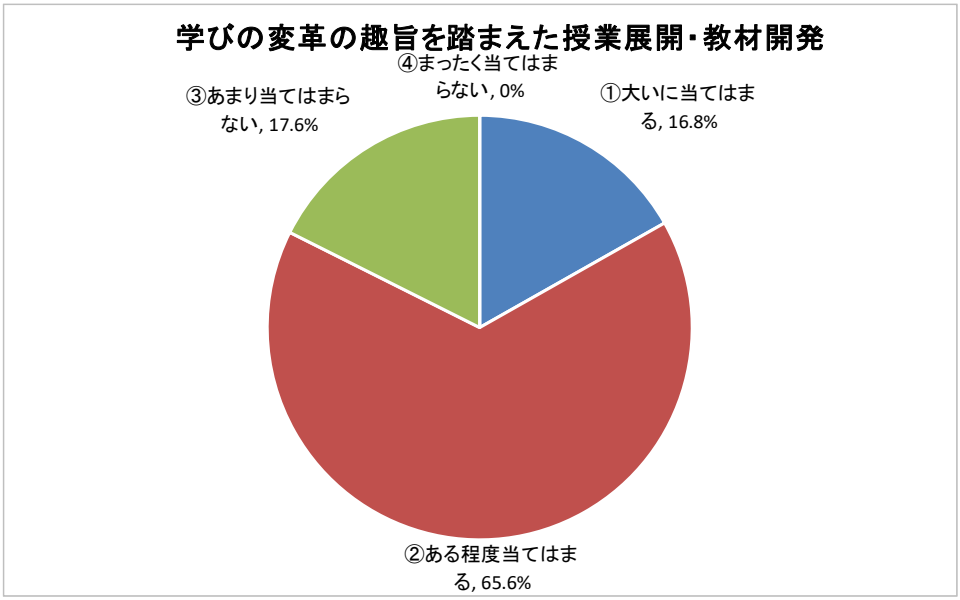
３　回答数

51 校　125 名

４　アンケート項目及び集計結果

【１】本年度（４月～現在、又は３月までの予定）の達成目標について該当する番号を〇で囲んでください。

１　英語部会の達成目標(1)についてお尋ねします。次の①～④のうち１つを選んでください。
「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」の趣旨を踏まえた授業を展開した、或いは教材を開発した。　①大いに当てはまる　②ある程度当てはまる
③あまり当てはまらない　④まったく当てはまらない



２　英語部会の達成目標⑵についてお尋ねします。「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」と関わりのある内容に関して、<u>どのような内容について</u>研究・研修に取り組まれましたか。次の①～⑤から選んでください。（複数選択可）

①　目標・評価について（外国語科に限らない）

（例）評価指標（ルーブリック）の開発・使用について
CAN-DO 形式による学習到達目標の開発・使用について
多様な評価方法（例えばパフォーマンス評価）について
評価の観点について

②　教授法・指導法について（外国語科に限らない）

（例）「能動的な学び」「主体的な学び」「アクティブ・ラーニング」について
「課題発見・解決学習」「探究的な学び」「教科の枠を越えた学び」
「思考力・判断力・表現力等の育成」「言語活動の充実」について
「見方・考え方」を働かせた授業について「ディベート活動」について

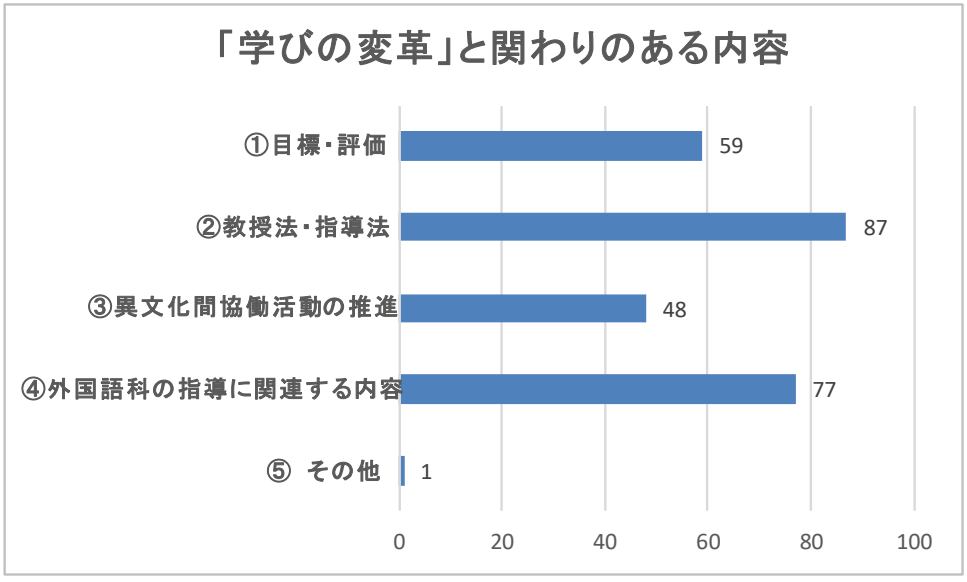
③　異文化間協働活動の推進について（外国語科に限らない）

（例）外国人との交流・姉妹校交流（Web 会議、交流プログラム開発）について
生徒の異文化体験・海外留学について
グローバル・マインドの育成について
SDGs や WWC に関わるプログラム開発について

④　特に外国語科の指導に関連する内容について

（例）英語の４技能５領域（聞く・読む・話す（やり取り/発表）・書く）の育成について
主として英語を用いて英語の授業を行うことについて
英語教員としての英語力の向上について

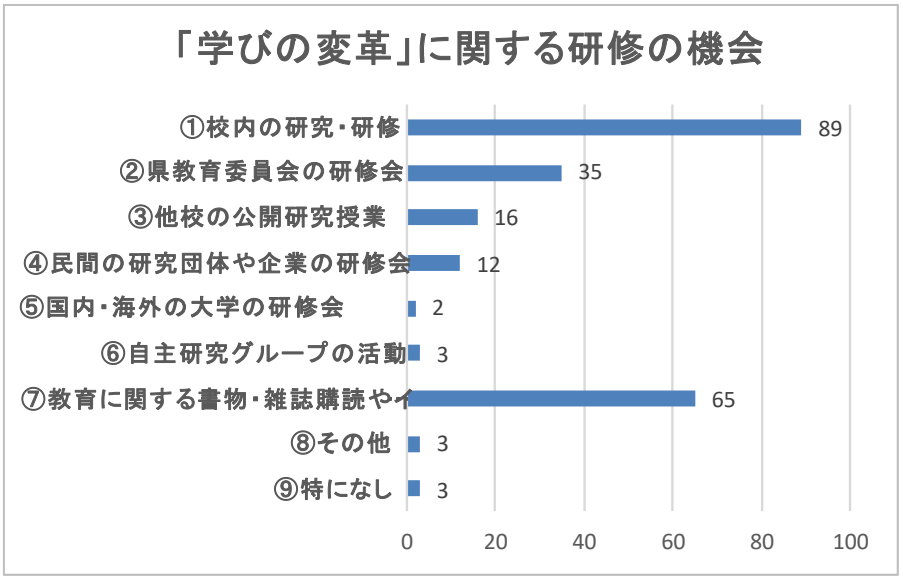
⑤　その他



（数字は実数）

3　英語部会の達成目標⑵についてお尋ねします。「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」と関わりのある内容に関して、どのような機会において研修に取り組まれましたか。次の①～⑨から選んでください。（複数選択可）

①校内の研究・研修　②県教育委員会の研修会　③他校の公開研究授業
④民間の研究団体や企業の研修会　⑤国内・海外の大学の研修会
⑥自主研究グループの活動　⑦教育に関する書物・雑誌購読やインターネットによる情報
⑧その他　⑨「学びの変革」と関わりのある内容に関して特に研修はしていない。



（数字は実数）

4　現在、どのような分野・テーマの研修をしたいと思われていますか。

【話すこと・書くこと】
- 話す力及び書く力を伸ばす授業づくりについて
- 「話す力」の習得法について
- やりとり・発表
- 「書くこと」の効率的な評価方法について
- 効果的なライティング指導について
- 自由英作文（英文エッセイのライティング）

【４技能５領域の育成】
- 英語の４技能５領域の育成について
- 統合的な４技能の育成
- ４技能を統合した様々な活動例
- ４技能統合型授業づくりについて

【教科横断的な学習】
- 教科横断的な学びを育む授業づくり
- 教科の枠を超えた学びについて
- 今年は研修で概念型探究について学んだ。英語の授業で学んだスキルが教科横断するような単元指導計画や授業展開などを学びたい。

【学習指導】

・新しい学習指導要領での学力観について
・新指導要領を見据えた指導法のあり方
・英語（外国語）の面白さ
・英語科教育法について
・英語が苦手な生徒やモチベーションの低下している生徒に対する指導法について
・基礎学力（学び直し）の有効な指導法
・中学校で学びきれず高校に上がった生徒に英語を楽しませる方法
・モチベーション・学力層が様々な生徒が集まったクラスにおいて、どの生徒にとっても満足できるような授業づくりについて
・英語で英語を読む
・英語で伝える力を高めるための授業方法（発信力）
・英語での道徳教育や異文化理解に役立つ授業
・音韻認識を育む教材開発
・外国語科における探究的な学び
・外国語科の指導実践とその成果に関連する内容について
・暗記した語彙を効率的にリーディングとライティングで活用する方法
・英語力を伸ばすのに有効な指導
・思考力・判断力・表現力等の育成
・自走につながる教科指導の在り方
・授業改善
・授業の中で協働の場面をどのように構築していくか。
・思考力・判断力・表現力を見とる問題作成のあり方、評価の仕方
・教科書の内容をどうやって教えれば、訳読にならずに生徒に理解させることができるのか。
・速読力を向上させる英文の読ませ方
・多読に関する実践指導と All in English による授業のあり方
・長文読解（地歴科・公民科科×英語）
・生徒の英語力向上のための指導
・専門高校の生徒が、自らの専門分野の学びと外国語での学びの結びつきをより強く意識できる授業づくりについて
・特別支援教育の視点を取り入れた英語の授業づくりについて
・発話行為理論に基づいた教材の開発
・英語を使う必要が明確に出る方策
・テキストを有効に扱う方法について（教科書はとてもよく工夫されているが、そうした部分をじっくり扱う余裕がない。）
・論理的でまとまりのある英文を書く指導
・ディベート形式での論理的な反論の指導
・ディベート指導
・ディベートや探究学習について
・ALT との協働（TT の効果的な進め方）

【ICT・AI の活用】
・AI の活用方法について
・AI を活用した英語授業の展開
・AI を活用した指導について
・授業における生成 AI の効果的な活用について
・AI を活用した授業の工夫・授業における生成 AI の活用について
・AI を活用すべき取組及び活用すべきでない（従来のやり方で残していくもの）取組
・ICT と生成 AI を活用した英語授業で表現力を伸ばす研修に参加したい。
・ChatGPT の活用
・ICT を活用した教育活動において、いかに活用し能力の向上が図れる取組が可能か。
・ICT を活用した授業実践について

【パフォーマンス課題】
・各科目におけるパフォーマンス課題と評価について
・実際の教材（教科書レッスン）を基に、生徒の実態に応じたパフォーマンステストを作成する方法
・パフォーマンス課題におけるルーブリックの開発と使用について
・パフォーマンス課題の評価について
・パフォーマンステストについて
・パフォーマンステストの内容とその評価方法について
・多様な生徒に応じたパフォーマンス課題の実践と評価
・テスト作成（パフォーマンステスト、ペーパーテスト両方）とその評価について

【主体的な学び】
・主体性の評価の方法・妥当な評価とは何か・生徒の 4 技能を伸ばす授業の工夫
・主体的・対話的で深い学びの実践例をできる限り知りたい。
・ユニバーサルな視点を含む、主体的な学びを促進する授業について
・主体的な態度の評価について

【評価】
・評価指標の開発について
・評価指標の検討
・評価問題
・多様な評価方法
・評価指標（ルーブリック）の開発について
・目標の立て方

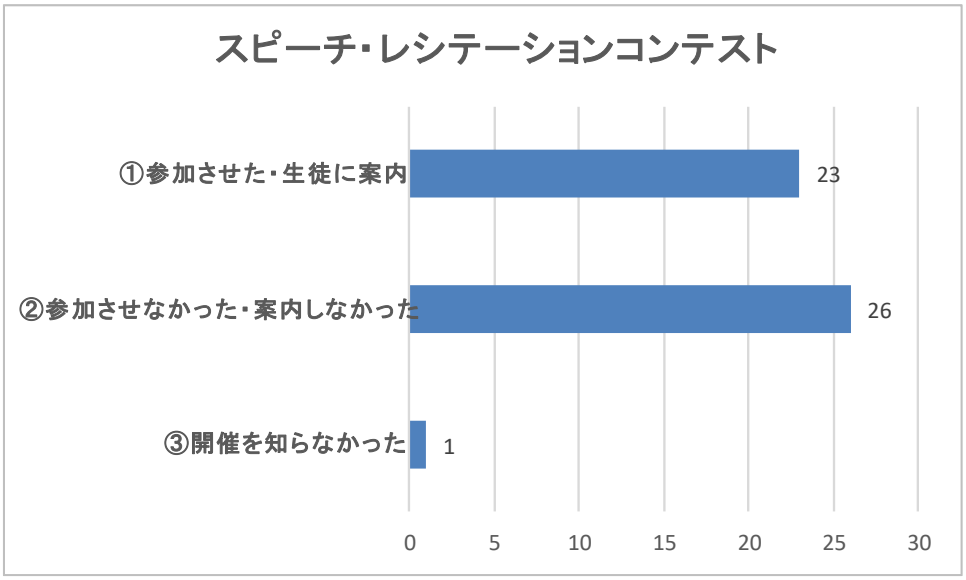
【異文化理解】
・異文化間協働活動の促進
・姉妹校交流について
・各校の姉妹校交流について（どのように学校として取り組むか）

【その他】
・STEAM 教育
・TANABU メソッド
・５ラウンドを高校ですることのデメリットとメリット

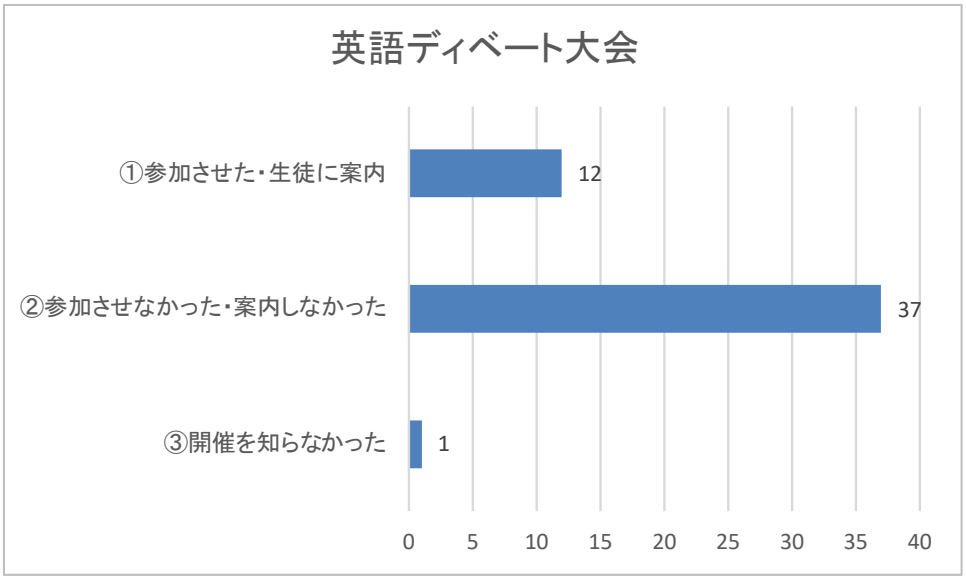
【２】英語部会主催の１・２の高校生育成事業に関して、次の項目(a)～(c)について、それぞれお答えください。
１　英語スピーチ・レシテーションコンテスト（８月 29 日予選→９月 14 日本選）
２　英語ディベート大会（10 月 26 日）

(a)　①生徒を参加させた、或いは生徒に案内した。
　　②生徒を参加させなかった、或いは案内しなかった。
　　③本校の誰も開催されるのを知らなかった。
(b)　②と答えられた学校は、その理由をお書きください。
(c)　この事業に来年度貴校の生徒を参加させるために、或いはこの事業を更によいものにするために、改善するべき課題があればお書きください。

(a) 生徒の参加について



（数字は実数）



（数字は実数）

(b) 生徒を参加させなかった、或いは案内しなかった理由

【スピーチ・レシテーションコンテスト】

・希望する生徒がいなかったため。（８）
・英語学習に対する意欲が高くない。学力面から出場するレベルにはない。（６）
・ESS で小学校訪問など別の取組を行っていたため。
・SSH の学校設定科目で「発表」の活動をさせているため。
・夏休み前の案内だったため、参加希望の生徒を集めることができなかった。
・学校行事、クラブ活動の日程との調整が困難
・校務等で忙しいため。（５）
・校内の課題を取り組ませた。
・部会員が自分一人となってしまったため。
・十分な準備時間がとれない。
・商業高校スピーチコンテストに参加させているから。（２）
・例年案内したことがない。

【英語ディベート大会】

・希望する生徒がいなかったため。（８）
・英語学習に対する意欲が高くない。学力面から出場するレベルにはない。難易度が高い。生徒が慣れていない。（10）
・授業での取組など、校内で十分な指導ができていない。指導できる人的、時間的余裕がない。（12）
・ESS で小学校訪問など別の取組を行っていたため。
・SSH の学校設定科目で「発表」の活動をさせているため。
・学校行事、クラブ活動の日程との調整が困難（２）
・教員がジャッジに加わる必要があり負担となる。
・校内の課題を取り組ませた。
・今後ディベートを指導する機会があれば、参加させたいと考えている。

(c) 改善すべき課題

【スピーチ・レシテーションコンテスト】

・「話す」場面を増やし、表現することに慣れさせる必要がある。
・AI を使ってどうやれば指導にかける時間が短縮でき、生徒が自ら練習をするようになるのかという無料の研修があればうれしい。
・スピーチの原稿を AI を使って準備をするようになれば、似たものができてくる気がするので、AI を使用し指導をする際の助言の仕方や AI の使わせ方の研修があれば嬉しい。
・研修会の実施
・レシテーションコンテストはその役割を既に果たしたと思うので、廃止してもよいのではないか。部会の目標(1)(2)に照らせば、主体的・対話的な学びではないし、負担軽減をしてもよいのではないか。
・普段の授業と連動させて、一過性のイベントにしない。
・レベルを知るために、優勝者の音声データが公開されるとよい。
・予選の段階でも、評価のポイント、改善点についてフィードバックをいただきたい。
・教員負担が増える現状を改善するため、参加生徒が外部トレーニングに参加し主体的に準備できるよう、指導や準備をある程度外部に委託できる仕組みが必要である。
・全体への周知を強化するとともに、夏季課題などとして生徒に参加を促す方法も検討する。
・英作文コンテストが全国も広島県もなくなり、どうやって作文力をつけていくべきか（モチベーションを持って取り組ませるものがあるか）、今後英作文指導をどうするのかを部会でも話題にしてほしい。
・学校行事、クラブ活動の日程との調整
・学校内で何に重点を置くか、改善策が必要
・帰国生徒のすみわけがあるとよい。英語運用能力だけでなく、バックグラウンド（文化的なギャップなど）による内容の濃さが違いすぎるように感じた。
・授業内で、積極的に生徒に紹介する。
・スピーチ・レシテーション、ディベートだけでなく、例えばあるトピックについて英語でビデオ作製する等生徒が積極的に参加しやすいものがあるとよい。
・生徒へ掲示できる（キャッチーな）チラシや要項等の提供があればやりやすい。
・生徒への案内、英語部の部活動内での案内など、参加したいと思う生徒に届くような周知の仕方と指導のあり方を考えていかなければならない。
・段階的な指導
・広島商業高等学校で行われたスピーチコンテストに２名の生徒が参加したが、これは例年になく参加意欲がある生徒がいたためであり、非常に良い経験になったと本人たちが認識している。また、スピーチコンテストやレシテーションコンテストに興味のある生徒がいれば、積極的に参加を呼びかけたい。
・普段の授業を通して、英語学習そのものに対するモチベーションを高めていくこと。

【英語ディベート大会】

・「話す」場面を増やし、表現することに慣れさせる必要がある。
・教員負担が増える現状を改善するため、参加生徒が外部トレーニングに参加し主体的に準備できるよう、指導や準備をある程度外部に委託できる仕組みが必要である。

・全体への働きかけは勿論、興味・関心や進路志望に応じて個別の働きかけを強化する。
・１、２年の「論理・表現」の授業などで取り組まないといけないと考えてはいるものの、なかなか継続的に実施できない。
・学校行事、クラブ活動の日程との調整
・学校内で何に重点を置くか、改善策が必要
・教員の指導
・授業内でディベートを取り入れる。
・スピーチ・レシテーション、ディベートだけでなく、例えばあるトピックについて英語でビデオ作製する等生徒が積極的に参加しやすいものがあるとよい。
・生徒へ掲示できる（キャッチーな）チラシや要項等の提供があればやりやすい。
・そもそも日本語で議論をすることに関心の高い生徒は少ない。英語となると、なおさらである。英語力を伸ばすことと、議論することは面白いと思える授業を展開する必要がある。
・大会の評価基準やルーブリック等があれば、生徒が準備する際に大変参考になる。
・段階的な指導
・ディベート指導について、教員も研鑽を積む。
・ディベート大会に向けて練習する時間の確保と指導者のスキルの育成
・普段の授業を通して、英語学習そのものに対するモチベーションを高めていくこと。校内でディベートをする環境がなければ、大会に出るところまでいかない。
・教員間でもディベートそのもの、ジャッジに関する知識や経験に差がかなりあるため、ジャッジを出場校から必ず出さないといけないというのはなかなか苦しい。また、引率者が１名の場合、ジャッジをしないといけないので、終日生徒とは接触が禁じられており、生徒の健闘ぶりを見ることができない。そうなると当日の取組を見た上での指導ができないため、引率教員がジャッジをする場合でも、自分がジャッジをする試合以外の時間に自校の試合を見る機会や生徒と話をする機会をいただきたい。

アンケートへの協力ありがとうございました。

資料１

■各地区における研究授業の実施について

令和７年度英語部会共催 公開授業研究会

日　時	支　部	学校名	科　目	授業者	研究主題 ～実践テーマ～
10月30日（木） ５限 13:35-14:25	尾三	三原東	英語コミュニケーションⅠ	小西　雄也	教科の学習を深める「主体的な学び」を促す授業づくりー生徒指導の四つの視点と学習指導の一体化を通してー
11月４日（火） ６限 14:05-14:55	広島東	安芸府中	英語コミュニケーションⅡ	村田　修	論理的に考える力の育成を目指した授業の構築
11月５日（水） ５限 13:20-14:10	福山	大門	英語コミュニケーションⅠ	杉原　万利子	教科の特性を活かした「主体的・対話的で深い学び」 ～DXを意識した授業の工夫～
11月７日（金） ５限 13:40-14:30	広島西	高陽東	論理・表現Ⅰ	坂本　彩野	「生徒の協働的な学びを促す授業の工夫―ICT の効果的な活用を通して―」
11月11日（火） ６限 14:30-15:20	呉	呉三津田	論理・表現Ⅱ	岩崎　直樹	「教科における探究的な学びとは？」 比較を表す表現
11月13日（木） ６限 14:40-15:30	広島東	広島国泰寺	英語コミュニケーションⅡ	渡辺　真弓	批判的・論理的思考力の育成
11月14日（金） ５限 13:20-14:10	広島東	賀茂	英語コミュニケーションⅡ	永田　大介	転移可能な概念的理解を意識した単元デザイン

資料２

■第 22 回広島県高校生英語スピーチコンテスト　最優秀賞

Invisible Labels

スピーチの部
広島県立安芸府中高等学校
２年・濵井雅藍・１６歳・女
HAMAI, Mia

“She’s sitting alone. She must not have any friends. He barely smiles. He must be unfriendly.” I think we’ve all had thoughts like these, even just for a moment. But what if I told you, these aren’t facts. They’re labels. And most of the time, we don’t even notice we’re using them. Today, I want to talk about unconscious labeling. The quiet ways we form impressions of others without realizing it. And how those impressions can shape the way we see people, sometimes more than who they really are.

I’m half Canadian and half Japanese. And growing up, I often felt like I didn’t quite fit in anywhere. In Japan, I am the “half girl”. People expected me to be fluent in English, outgoing and confident. But in Canada, I’m the "Japanese girl”. Quiet and reserved. Somewhere between those two “labels”, I started to wonder who I really was. People would say things like, “You’re so lucky you can speak English and Japanese! ” And of course, I am grateful. But sometimes, behind those words, I could sense an assumption that maybe I didn’t have to try as hard. That it all came easily because of my background. And yes, it’s true that I can speak English well because I had the advantage of having a parent who taught and spoke to me in English from a young age.

But the truth is, I struggled a lot with Japanese when I was younger. At home, there was no one I could speak Japanese with, so when I started elementary school, I struggled. I didn’t understand most of the things my teachers and friends were saying and I felt left out. I remember a teacher telling my parents, “Her Japanese isn’t strong enough”. I felt embarrassed, even though I was trying my best. Ironically, the language that made me stand out, English, was also a part of the reason I felt like an outsider as a child.

My Canadian relatives spoke French, which I couldn't speak. In Japan, I struggled with Japanese. I often felt like I didn’t fully belong anywhere. As if I were always on the outside, looking in. That’s when I started to notice something. People didn’t mean to be unkind, but their words and expressions often came with expectations I hadn't chosen. “You must be fluent in English, right?” “You’re half so you must be good at languages.” They didn’t see the hours I spent practicing. They only saw the label.

So when people tell me now, “ You’re lucky you’re good at English.”, I think about the younger me who couldn’t understand the words in the school yard, trying to keep up. I didn’t just wake up one day speaking multiple languages. I learned through effort, trial and error and with the desire to feel like I was part of a group. I held on to the hope that I would be seen for myself and not for what the labels made me into.

Unconscious labels might seem small. But they can keep us from truly seeing the person in front of us. And this isn't just about race or languages. We all do this. We assume the tall guy must be good at sports and the quiet girl must be shy. We decide who someone is before getting to know them. The truth is, people are always more than they seem. It is important to talk about the tendency we all have to label others. Discussing it allows us to be aware of the issue. That is a big step forward.

So here is what I want to ask. Next time you meet someone who’s different, pause. Instead of guessing what they’re like or what they’ve been through, try asking. Try listening. Try unlabeling. Because behind every label is a real person with real dreams, fears and a real need to be seen for who they truly are. And that includes me.

■第 22 回広島県高校生英語スピーチコンテスト　優秀賞

Who are you?

スピーチの部
広島市立広島商業高等学校
2 年・重松桜子・17 歳・女
SHIGEMATSU, Sakurako

If someone were to ask who you are, would you know what to say? Would you say your name? My name is Shigematsu Sakurako, but my American name is Myeisha Whaley. Who am I?

You might describe yourself based on your physical features, such as the color of your hair or the shade of your eyes. When I was a little girl, I had light brown skin with long, dark curly hair, just like my best friend. As for my parents, my mom had peach skin, and my dad had dark brown skin. I loved drawing as a kid. When I would draw my family, I always used 3 different colored markers for our skin tone. When I was in elementary school, I learned about history and social studies. Before long, I had realized that not only was I black, but my best friend, who looked like me, was Mexican. My dad, my mom, my best friend, and I, were all in different categories. It took me some time to comprehend it, but it was then that I learned about categorizing people.

The years I spent growing up in the US, I was categorized as black. At the same time, not everybody considered me black because I am mixed with both black and Japanese. When I had moved to Japan, the people around me had viewed me as not Japanese, but instead, American. For instance, going to places with my family, such as restaurants. The employees first initiative is to speak to us in English. They would hand us English menus, even though I am Japanese and speak some of the language. Foreigners think that all Americans are energetic, cheerful, and bold. But actually, in Japan, I get shy quite often. That is because everywhere I go, people stare at me, just because I look different. Getting stared at everywhere I go makes me uncomfortable and a bit shy. America is a diverse country, so growing up, I didn't get stared at. All my life I've been confused on where I fit in. Who am I?

As of June 2025, there are over 3.7 million foreign residents in Japan. The foreign population in Japan has been steadily increasing, reaching a new record high. The largest group of foreign residents is from China, followed by Vietnam, South Korea, and the Philippines. The reason for this increase is the labor shortage caused by a declining birthrate and aging population. As well as Japan's technological capabilities and high standard of living. Because of this, foreign workers are filling these gaps, partly in industries like manufacturing, construction, agriculture, and in healthcare. In 10 years' time, 2035, there will be an estimation of 3.77 million foreigners working in Japan.

In the future, during our children's generation, it's possible that half of their class at school won't be filled with native Japanese kids. Do they need to be categorized as well? It might be convenient to categorize things to understand each other and our situations. If you are going to categorize people to understand their background and culture, that is okay. But respect others even if they are different from you. My friend living in Japan is mixed as well. She's Japanese and Canadian. But unlike me, she was born and raised in Japan. Because of that, she's fluent in Japanese. Even though we still have some differences between us, that didn't stop us from becoming friends and respecting each other.

For these reasons, it's not about what you're categorized as, whether it's about race, gender, beliefs, and so on. Now, I've realized from my experience that I don't need to fit in. People shouldn't categorize me, I should decide who I want to be. And you should decide who you want to be as well, be the person you desired to be. Let's try to live in a society where people don't judge you for what you're categorized as. With all being said, who are you?

資料３

■令和７年度本部役員並びに事務局

役職名	氏名	公職名
部会長	神笠　薫子	広島県立安西高等学校校長
副部会長	植田　　圭	広島県立尾道東高等学校校長
副部会長	矢野　由美子	広島県立熊野高等学校校長
副部会長	大道　伸幸	広島県立安芸府中高等学校校長
副部会長	西　巌弘	広島市立舟入高等学校校長
監事	取違　亜希子	広島県立広島皆実高等学校教頭
監事	龍王　理香	広島県立庄原格致高等学校教頭
監事	竹内　由美子	広島県立宮島工業高等学校定時制教頭
理事	久山　慎也	広島県立安芸府中高等学校指導教諭
理事	久保田　早苗	広島県立五日市高等学校教諭
理事	片山　弥生	広島県立忠海高等学校教諭
理事	藤岡　優子	広島県立上下高等学校教諭
理事	上原田　望	広島県立安芸南高等学校教諭
理事	中山　智恵子	広島県立西城紫水高等学校教諭

【事務局】

事務局長	豊島　唯顕	広島県立呉宮原高等学校教諭
会計	有末　徹朗	広島県立広高等学校教諭
庶務	尾﨑　二朗	広島県立呉三津田高等学校教諭
庶務	宮内　花菜	広島県立音戸高等学校教諭
庶務	森川　真由美	広島県立大柿高等学校教諭

広島県立呉宮原高等学校
〒737-0024　呉市宮原三丁目１－１
TEL:(0823)21-9306　　FAX：(0823)21-9308

資料４

■広島県高等学校教育研究会英語部会会則

第１条【名称と所在地】　本会は、広島県高等学校教育研究会英語部会と称する。また、この会の所在地を会長の勤務する高等学校に置く。

第２条【目的】　本会は、英語教育に関し、広島県教育委員会の指導のもとに、学習指導要領等の法令に則って自主的・創造的な教育研究活動を行い、本県高等学校、特別支援学校及び高等専門学校教育関係者の資質向上と学校教育の振興を図ることを目的とする。

第３条【事業】　本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1　研究会、講習会、講演会等の開催
2　英語教育に関する研究、調査等
3　会員並びに生徒の研究および発表の助長
4　研究紀要の発信
5　他の語学教育研究団体との連絡協力
6　その他、本会の目的を達成するために必要と認められる事項

第４条【会員】　本会は、本会の趣旨に賛同する県内高等学校、特別支援学校及び高等専門学校の教職員で構成し、支部を広島、呉、尾三、福山、三次の各地区に置く。

第５条【入会及び退会】①　会員は除名される若しくは退会の申し出がない限り継続するものとする。
②　新規に会員になろうとする者は、役員会において別に定めるところにより本会会長に申し出なければならない。
③　退会する者は、役員会において別に定めるところにより本会会長に申し出なければならない。

第６条【役員】　本会には次の役員を置く。

（１）会長　　１名
（２）副会長　　若干名
（３）理事　　若干名
（４）庶務・会計　　若干名
（５）監事　　２名

1　会長及び副会長は、校長の職にある者でなければならない。
2　役員の選任は、次のとおりとする。
（１）会長、副会長、監事は役員会において選任する。
（２）理事は各地区支部より選任する。
（３）庶務、会計は会長が委嘱する。

第７条【職務】　役員の職務は次のとおりとする。
1　会長は、本会を代表し、会務を統括する。
2　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたとき、その職務を代理し又

は代行する。
3　理事は会務を分担処理する。
4　庶務、会計は本会の庶務及び会計の事務を行う。
5　監事は、会計を監査する。

第８条【任期】　任期については次の通り定める。
1　役員の任期は１年とする。ただし、補欠又は増員により選任された役員の任期は、前任者又は現任者も残任期間とする。
2　役員は、再任されることができる。
3　役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまではその職務を行わなければならない。

第９条【役員会】　会長は、本会の運営等について協議が必要な場合は、第６条に定める役員会を招集する。

第１０条【総会】　本会は毎年１回、総会を開き、重要な事項につき協議する。総会は役員会をもって代行することができる。

第１１条【会計】　本会の運営経費は、会費ならびに寄付金、その他の収入で充当し、その額は役員会において別に定める。

第１２条【会計期間】　本会の会計年度は、４月１日に始まり翌３月３１日に終わる。

第１３条【事務局】　本会にかかる庶務を処理するため、役員会において別に定める学校に事務局を置く。

第１４条【除名】　会員が、教育研究会及び本会の目的に反する行為を行った場合、役員会の４分の３以上の賛成により除名することができる。

第１５条【会則改正】　この会則の改正は役員会の４分の３以上の賛成及び広島県高等学校教育研究会の承認を得なければならない。

（その他）
第１６条　この会則に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は、会長が定める。

第１７条　この会則は、平成１２年７月１日より施行する。

附　則　　この会則は平成１９年７月１日より施行する。
附　則　　この会則は平成２１年７月１日より施行する。
附　則　　この会則は平成２３年４月１日より施行する。
附　則　　この会則は平成２４年１１月１日より施行する。